

マークをクリックするとそのページを見ることができます



発生動向総覧
P.2-5

< 第4週 >

インフルエンザの定点当たり報告数は第43週以降増加が続いており、過去5年間の同時期と比較してやや多い / その他最新動向



注目すべき感染症
P.6-8

< インフルエンザ >

第4週の定点当たり報告数は36.44となり、今週も大幅な増加となった



病原体情報
P.9-11

インフルエンザウイルス 2012/13シーズン



速報
P.12-13

国内で初めて診断された重症熱性血小板減少症候群患者



海外感染症情報

< 今週は該当記事はありません >



感染症の話
P.14-24

< AIDS(後天性免疫不全症候群) 前編 >
後天性免疫不全症候群は、ヒト免疫不全ウイルス感染によって生じ、重篤な全身性免疫不全により日和見感染症や悪性腫瘍を引き起こす状態をいう



読者のコーナー
< 今週は該当記事はありません >



グラフ総覧(4週)
P.25-30



4週のデータ
P.31-44



発生動向総覧

< 第4週コメント > 1月30日集計分

全数報告の感染症

注意: これは当該週に診断された報告症例の集計です。しかし、迅速に情報還元するために期日を決めて集計を行いますので、当該週に診断された症例の報告が集計の期日以降に届くこともあります。それらについては一部を除いて発生動向総覧では扱いませんが、翌週あるいはそれ以降に、巻末の表の累積数に加えられることになります。

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として記載されていたものを示します。

1類感染症

報告なし

2類感染症

結核353例

3類感染症

腸管出血性大腸菌感染症11例(有症者4例、うちHUS 2例)

感染地域: 国内11例

国内の感染地域: 宮城県2例、三重県2例、新潟県1例、岡山県1例、長崎県1例、鹿児島県1例、不明3例

年齢群: 1歳(1例)、9歳(2例)、10代(1例)、20代(1例)、30代(3例)、50代(3例)

血清型・毒素型: O157 VT1・VT2(6例)、O26 VT1(1例)、O157 VT1(1例)、O159 VT2(1例)、その他・不明(2例)

累積報告数: 36例(有症者20例、うちHUS 3例、死亡なし)

4類感染症

A型肝炎2例

感染地域: 静岡県1例、愛知県1例

つつが虫病3例

感染地域: 千葉県1例、宮崎県1例、鹿児島県1例

レジオネラ症16例(肺炎型15例、ポンティアック型1例)

感染地域: 北海道2例(ともに温泉)、兵庫県2例、宮城県1例(温泉)、山形県1例(温泉)、茨城県1例、神奈川県1例、石川県1例、長野県1例(温泉)、静岡県1例、三重県1例、京都府1例、広島県1例、国内(都道府県不明)1例、グアム1例

年齢群: 40代(1例)、50代(1例)、60代(4例)、70代(6例)、80代(3例)、90代以上(1例)

レプトスピラ症1例

感染地域: 神奈川県_感染源: ネズミ

5類感染症

アメーバ赤痢15例(腸管アメーバ症13例、腸管及び腸管外アメーバ症2例)

感染地域: 東京都2例、神奈川県2例、大阪府2例、栃木県1例、大分県1例、国内(都道府県不明)2例、中国1例、台湾1例、インドネシア1例、東南アジア(国不明)1例、国外(国不明)1例

感染経路: 性的接触5例(異性間2例、同性間1例、異性間・同性間不明2例)、経口感染5例、不明5例

ウイルス性肝炎2例 B型2例__感染経路: 性的接触2例(異性間1例、同性間1例)
 急性脳炎10例 インフルエンザウイルスA型3例__年齢群: 1歳(1例)、30代(2例)
 インフルエンザウイルス型不明2例__年齢群: 10代(1例)、50代(1例)
 水痘带状疱疹ウイルス1例__年齢群: 60代
 病原体不明4例__年齢群: 0歳(2例)、10代(2例)

クロイツフェルト・ヤコブ病2例
 孤発性プリオン病古典型2例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例
 年齢群: 0歳(1例)、60代(1例 . 死亡)、70代(2例 . うち1例死亡)

後天性免疫不全症候群12例(AIDS 5例、無症候6例、その他1例)
 感染地域: 国内8例、国内・国外不明4例
 感染経路: 性的接触8例(異性間3例、同性間4例、異性/同性間1例)、不明4例

ジアルジア症1例 感染地域: 国内(都道府県不明)

梅毒14例(早期顕症I期3例、早期顕症II期4例、無症候7例)
 風しん76例(検査診断例63例、臨床診断例13例)
 感染地域: 東京都23例、神奈川県13例、埼玉県8例、大阪府5例、千葉県3例、兵庫県3例、愛知県2例、群馬県1例、愛媛県1例、熊本県1例、沖縄県1例、国内(都道府県不明) 14例、インドネシア1例
 年齢群: 4歳(1例)、10～14歳(2例)、15～19歳(6例)、20～24歳(11例)、25～29歳(16例)、30～34歳(13例)、35～39歳(13例)、40代(12例)、50代(1例)、60代(1例)
 累積報告数: 254例(検査診断例206例、臨床診断例48例)

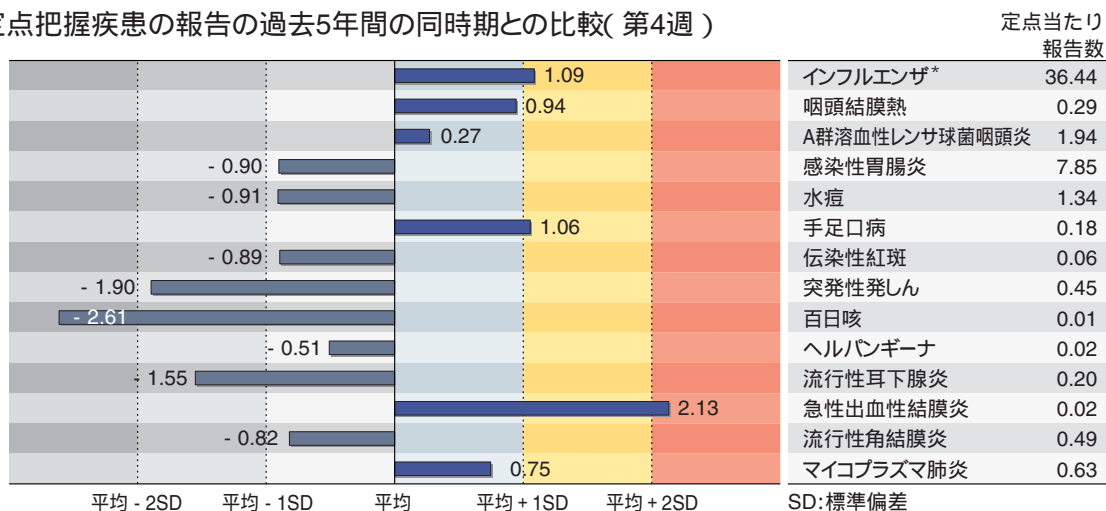
麻しん7例〔麻しん(検査診断例4例、臨床診断例3例)〕
 感染地域: 東京都2例、神奈川県2例、兵庫県2例、国内・国外不明1例
 年齢群: 15～19歳(1例)、20～24歳(1例)、25～29歳(2例)、30～34歳(1例)、35～39歳(1例)、40代(1例)
 累積報告数: 18例〔麻しん(検査診断例6例、臨床診断例8例)、修飾麻しん(検査診断例4例)〕

(補) 2013年第3週までに診断されたものの報告遅れとして、急性脳炎14例〔インフルエンザウイルスA型7例__年齢群: 0歳(1例)、1歳(1例)、2歳(1例)、6歳(1例)、7歳(1例)、60代(1例)、80代(1例)、インフルエンザウイルス型不明1例__年齢群: 5歳、エコーウイルス7型1例__年齢群: 0歳、病原体不明5例__年齢群: 1歳(3例)、40代(2例)〕、劇症型溶血性レンサ球菌感染症4例〔50代(1例)、60代(2例 . うち1例死亡)、70代(1例)〕、バンコマイシン耐性腸球菌感染症2例(遺伝子型: *VanC* 1例__菌検出検体: 血液、遺伝子型: 不明1例__菌検出検体: 便)などの報告があった。

定点把握の対象となる5類感染症

全国の指定された医療機関(定点)から報告され、疾患により小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科・内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)に分かれています。また、定点当たり報告数は、報告数/定点医療機関数です。

定点把握疾患の報告の過去5年間の同時期との比較(第4週)



当該週と過去5年間の平均(過去5年間の前週、当該週、後週の合計15週の平均)との差をグラフ上に表現した。(*2009年のパンデミックの影響を受けています。)

インフルエンザ

定点当たり報告数は第43週以降増加が続いており、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別では新潟県(53.81)、千葉県(53.22)、長崎県(50.91)、埼玉県(49.53)、愛知県(46.65)が多い。

小児科定点報告疾患

RSウイルス感染症の報告数は1,782例と増加した。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約75%を占めている。

咽頭結膜熱の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮崎県(1.31)、佐賀県(0.82)、山形県(0.70)が多い。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では富山県(5.52)、石川県(5.28)、鳥取県(4.21)が多い。

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では熊本県(14.32)、宮崎県(14.14)、高知県(12.63)が多い。

水痘の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では福井県(3.77)、鹿児島県(3.42)、宮崎県(2.89)が多い。

手足口病の定点当たり報告数は減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別では福岡県(0.94)、熊本県(0.90)、鳥取県(0.63)が多い。

伝染性紅斑の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では岩手県(0.85)、富山県(0.31)、宮城県(0.29)が多い。

百日咳の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別では福岡県(0.04)、北海道(0.03)、千葉県(0.03)、滋賀県(0.03)、和歌山県(0.03)、高知県(0.03)が多い。

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別では福岡県(0.11)、長崎県(0.11)、富山県(0.10)が多い。

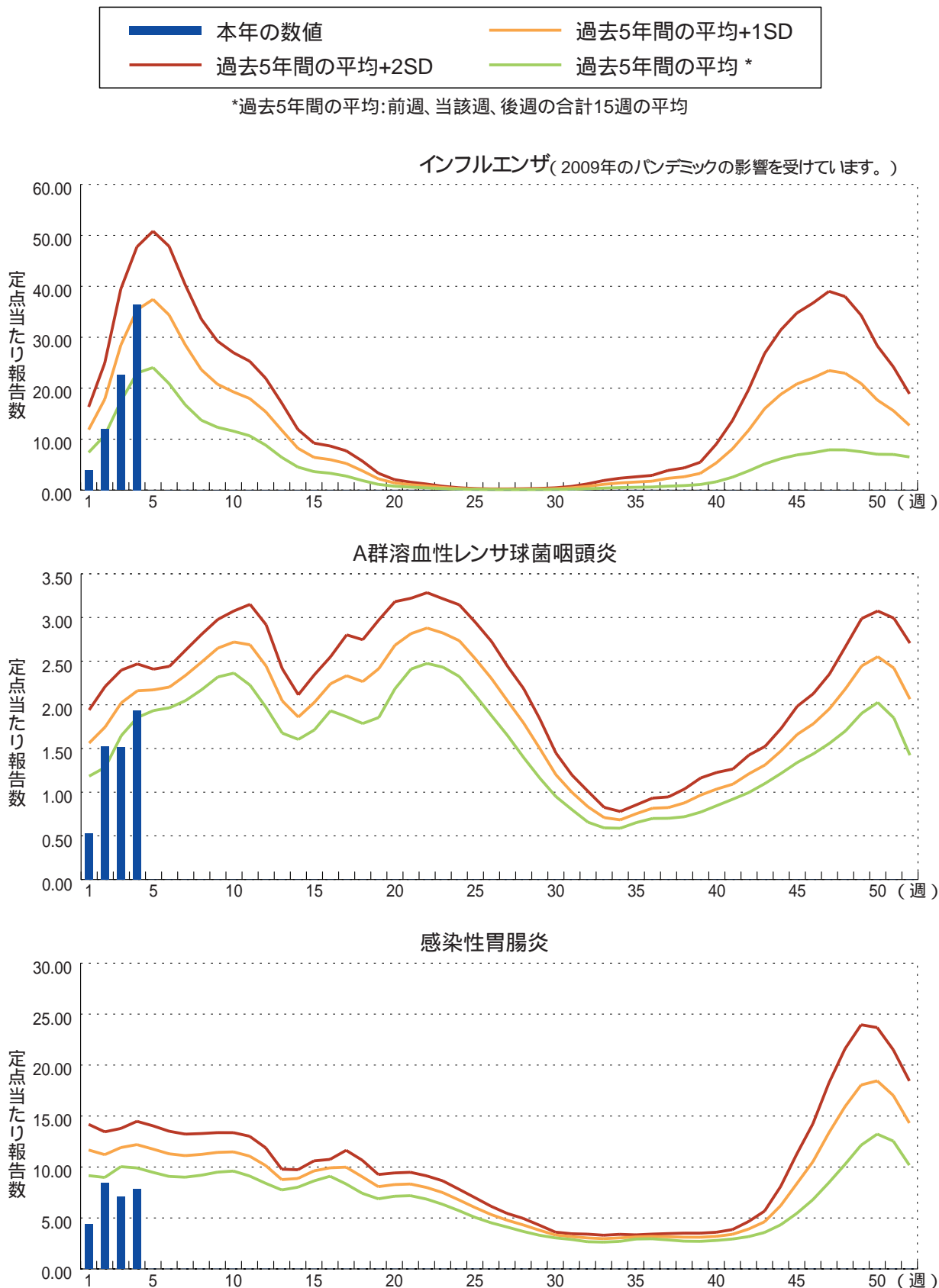
流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は2週連続で減少した。都道府県別では山形県(0.90)、福井県(0.64)、岩手県(0.63)が多い。

基幹定点報告疾患

マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は増加した。都道府県別では宮城県(2.75)、岐阜県(1.80)、沖縄県(1.57)が多い。

図. 主要定点把握疾患の過去5年間との週別比較(2013年第4週)

青のバーで示す本年の定点当たり報告数が赤のラインを超えているときには、過去5年間の週と比較してかなり多いことを示す。





注目すべき感染症

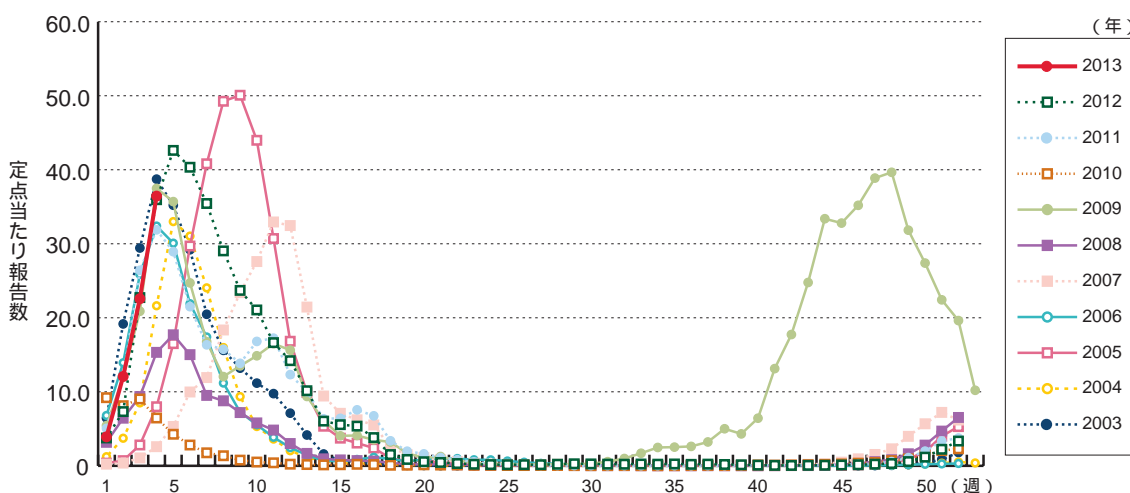
インフルエンザ

インフルエンザ(Influenza)は、インフルエンザウイルスを病原体とする急性の呼吸器感染症で、毎年世界中で流行がみられている。典型的な発症例では1～4日間の潜伏期間を経て、突然に発熱(38 以上の高熱) 頭痛、全身倦怠感、筋肉痛・関節痛などが出現し、鼻水・咳などの呼吸器症状がこれに続く。通常は1週間前後の経過で軽快するが、いわゆる「かぜ」と比べて全身症状が強いのが特徴である。主な感染経路はくしゃみ、咳、会話等で口から発する飛沫による飛沫感染であり、他に接触感染もあるといわれている(CDCホームページ: <http://www.cdc.gov/flu/professionals/infectioncontrol/healthcaresettings.htm>)。

インフルエンザの感染対策としては、飛沫感染対策としての咳エチケット、接触感染対策としての手洗い等の手指衛生が重要である。インフルエンザでは、たとえ感染者であっても、全く症状のない不顕性感染例や、感冒様症状のみでインフルエンザウイルスに感染していることを本人も周囲も気が付かない軽症例も少なくないため、特にヒト-ヒト間の距離が短く、濃厚な接触機会の多い学校、幼稚園、保育園等の小児の集団生活施設においては可能である場合は職員も含めて全員が咳エチケット、手指衛生を実行するべきである(厚生労働省インフルエンザQ&A: <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou01/qa.html>)。

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所(小児科定点約3,000、内科定点約2,000)のインフルエンザ定点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。インフルエンザの定点当たり報告数は、2012年第43週以降増加が続いている。2013年第4週の定点当たり報告数は36.44(報告数180,085)となり、今週も大幅な増加となった(図1)。都道府県別では新潟県(53.81)、千葉県(53.22)、長崎県(50.91)、埼玉県(49.53)、愛知県(46.65)、福岡県(45.74)、福島県(45.41)、神奈川県(41.69)、東京都(41.29)、茨城県(41.25)、愛媛県(40.46)の順となっ

図1. インフルエンザの年別・週別発生状況(2003～2013年第4週)



ており、第2週、第3週に続いて第4週も全ての都道府県で前週の報告数よりも増加がみられた(図2)。

定点医療機関からの報告をもとに、定点以外を含む全国の医療機関をこの1週間に受診した患者数を推計すると約214万人(95%信頼区間:200万人～228万人)〔暫定値〕となった。年齢群では、5～9歳約35万人(16.2%)、10～14歳約30万人(13.9%)、30代約26万人(12.0%)、0～4歳約25万人(11.6%)、40代約23万人(10.6%)、20代約20万人(9.3%)の順となっている。20歳以上の成人層の割合は50.5%と前週よりも低下しているが、昨シーズンの同時期(2012年第4週の成人層の割合は32.4%)と比べて大幅に高くなっており、また60歳以上の高齢者の割合も11.1%と昨シーズンの同時期(6.4%)よりも高くなっている(図3)。2012年第36週以降これまでの累積の

図2. インフルエンザの都道府県別定点当たり報告数の推移(2013年第2～4週)

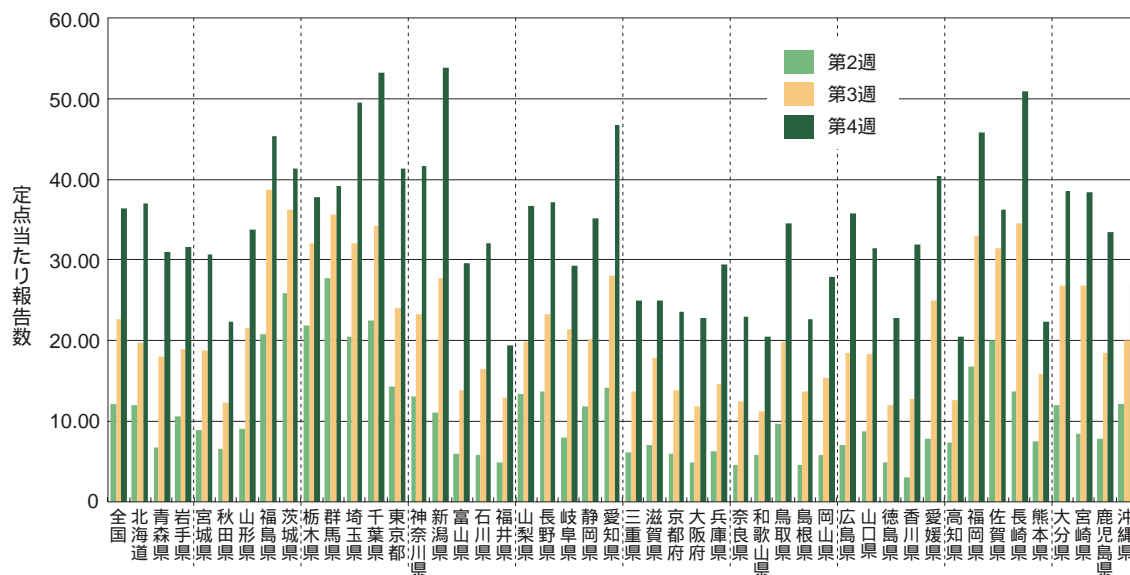
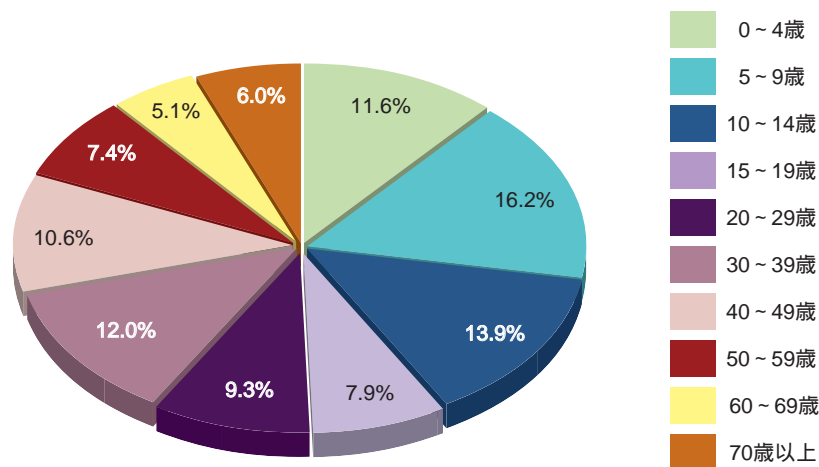


図3. インフルエンザ推計受診患者数(暫定値)の年齢群別割合(2013年第4週)

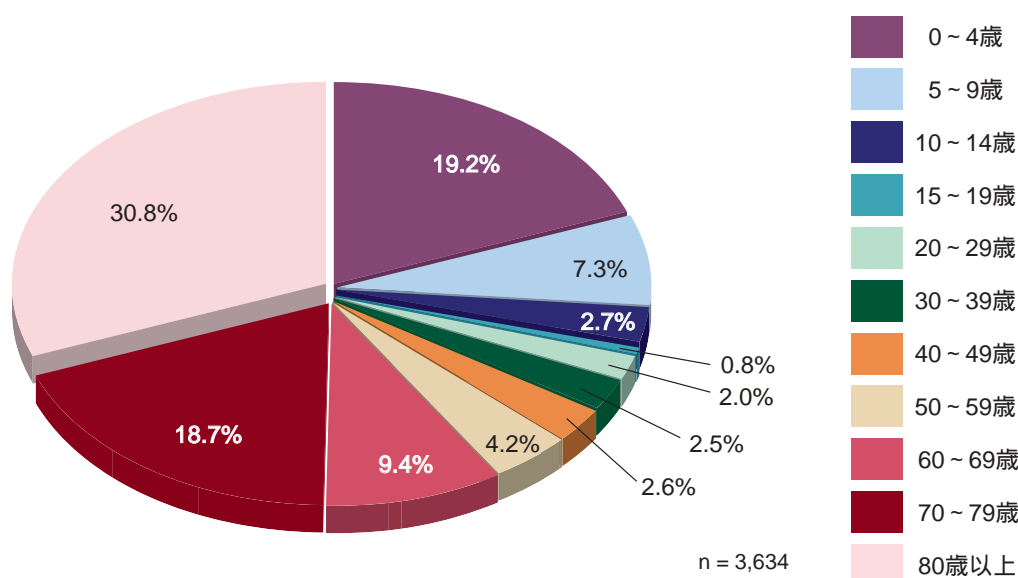


グラフに示している割合は、各年齢群毎に算出された推計受診患者数をもとに算出している。その総和は全体で算出された推計受診患者数と一致しない場合がある。

受診患者数は518万人(95%信頼区間: 499万人～537万人〔暫定値〕)であった。

全国約500カ所の基幹病院定点からのインフルエンザによる入院患者の報告数をみると、2013年第4週の報告数は1,318人であり、2012年第36週以降これまでの累積報告数は3,634人となった。累積報告数の年齢群別内訳は、80歳以上1,118人(30.8%)、0～4歳699人(19.2%)、70代679人(18.7%)、60代340人(9.4%)、5～9歳264人(7.3%)の順であり、60歳以上と9歳以下の入院例が全体の85.3%を占めている(図4)。

図4. インフルエンザ入院患者の累積報告数の年齢群別割合(基幹定点からの報告)
(2012年第36週～2013年第4週)



2012年第36週～2013年第4週までに国内では1,399検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、AH1pdm09が39件(2.8%)、AH3亜型(A香港型)1,267件(90.6%)、B型93件(6.6%)とこれまでのところAH3亜型が大半を占めている状態が続いている。

第4週もインフルエンザ患者数は大きく増加し、全国的に本格的な流行が続いている。今後ともインフルエンザの発生動向には注意深い観察が必要である。



病原体情報

* グラフはIASRホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html>)からの引用です。

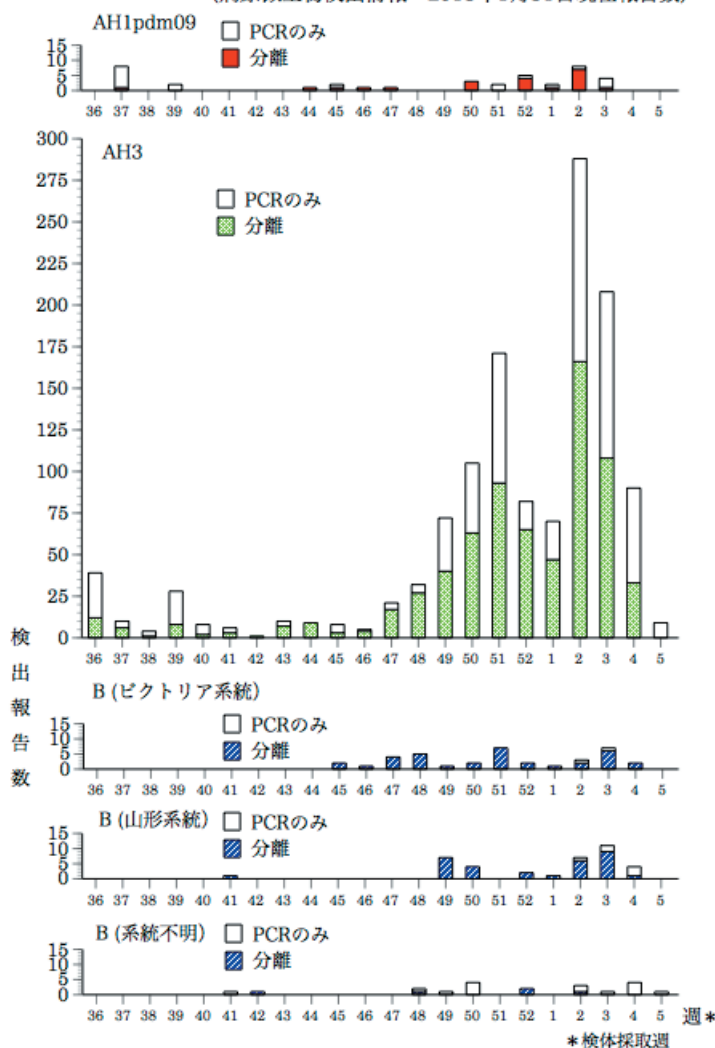
国立感染症研究所・感染症情報センターには各都道府県市の地方衛生研究所(地研)から「病原体個票」と「集団発生病原体票」が報告されています。これには感染症発生動向調査の定点およびその他の医療機関、保健所等で採取された検体から検出された病原体の情報が含まれています。週別の報告数は、病原体が分離・検出された検体の採取日による週ごとの報告数です。地域別の報告数は、その地域に所在する地研からの総報告数を都道府県別に示しています。

(2013年1月31日現在報告分)

インフルエンザウイルス 2012/13シーズン

2012/13シーズン(2012年第36週/9月～2013年第35週/8月)は当初よりAH3亜型が主に検出され、2012年第47週以降増加し始めた。年末年始に一旦減少したが、2013年第2週から再増加している。

週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数、2012年第36週～2013年第5週
(病原微生物検出情報: 2013年1月31日現在報告数)



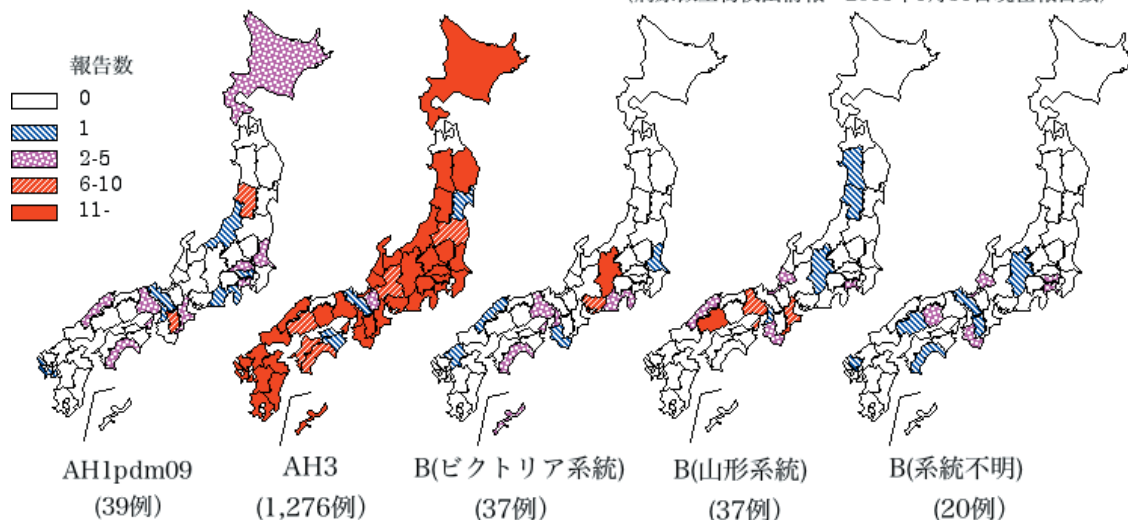
(データは現在週および過去の週に遡って追加が見込まれる)
各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した



Infectious Agents Surveillance Report

2012年第36週～2013年第5週の累積では、AH1pdm09が16都道府県から39件、AH3亜型が45都道府県から1,276件、B型はビクトリア系統株が11府県から37件、山形系統株が11府県から37件、系統不明株が11都府県から20件報告されている。

都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2012年第36週～2013年第5週
(病原微生物検出情報：2013年1月31日現在報告数)



各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を図に示した

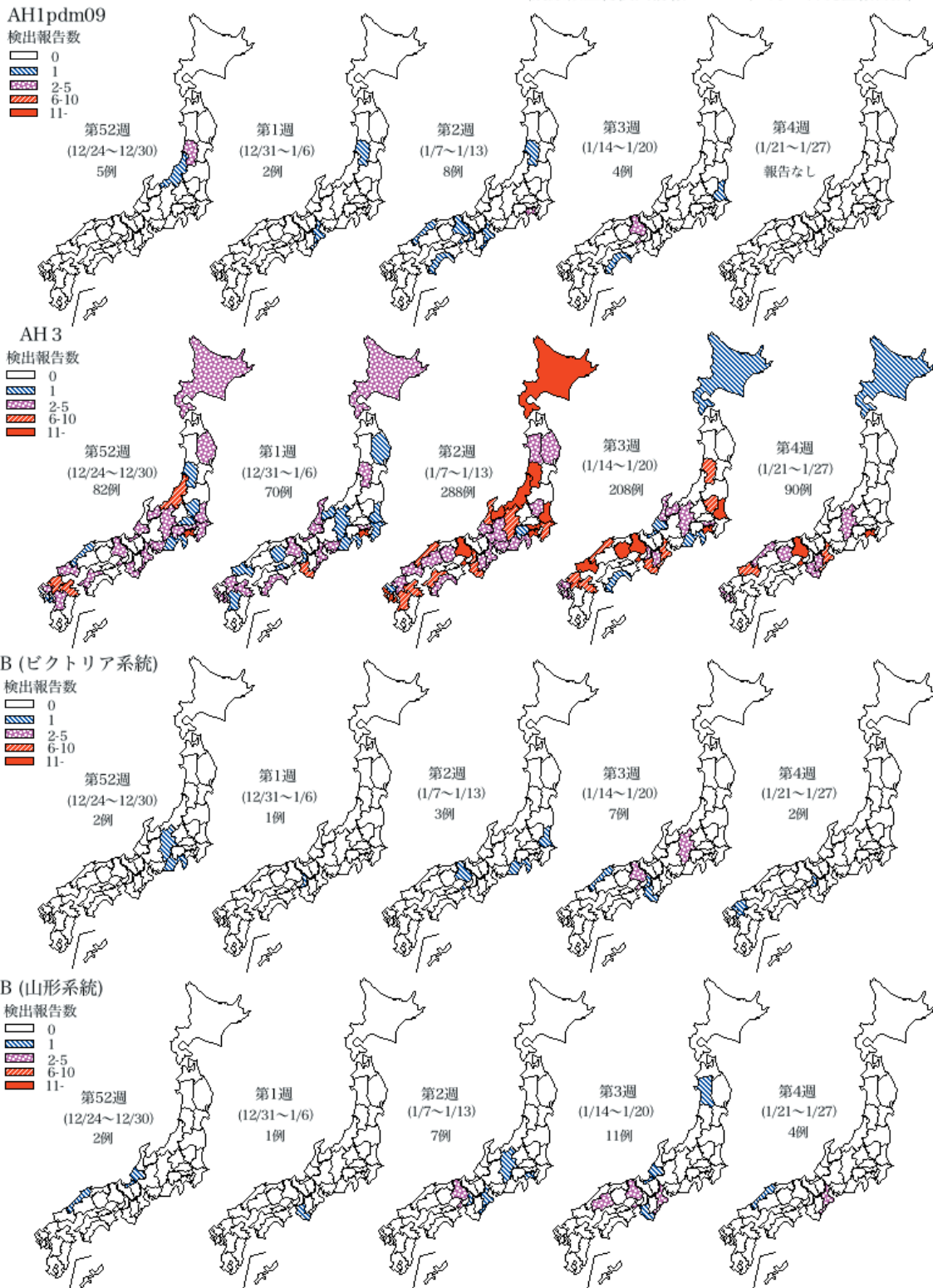


2012年第52週～2013年第4週の5週間では、AH1pdm09が9府県から19件(山形県6件、兵庫県3件、神奈川県、三重県、高知県各2件、茨城県、新潟県、大阪府、島根県各1件)、AH3亜型が36都道府県から738件(神奈川県155件、兵庫県64件、茨城県55件、山形県39件、山口県29件、和歌山県27件、三重県25件、大分県24件、東京都、長崎県各23件、北海道、長野県各22件など)、B型はビクトリア系統株が8府県から15件(長野県、大阪府、兵庫県各3件、静岡県2件、茨城県、和歌山県、島根県、福岡県各1件)、山形系統株が10府県から25件(三重県6件、兵庫県5件、広島県4件、福井県、和歌山県、島根県各2件、秋田県、神奈川県、長野県、大阪府各1件)、系統不明株が6県から10件(神奈川県、福井県各3件、奈良県、和歌山県、高知県、佐賀県各1件)報告されている。

このうち、輸入例からの検出報告はなかった。

インフルエンザウイルス分離・検出速報は <http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr-inf.html> を参照ください。

週別都道府県別インフルエンザウイルス分離・検出報告状況、2012年第52週～2013年第4週
 (病原微生物検出情報：2013年1月31日現在報告数)



*各都道府県市の地方衛生研究所からの分離/検出報告を検体採取週別に図に示した



国内で初めて診断された重症熱性血小板減少症候群患者

重症熱性血小板減少症候群 (severe fever with thrombocytopenia syndrome, SFTS) はブニヤウイルス科フレボウイルス属に分類される新規ウイルス、SFTSウイルス (SFTSV) によるダニ媒介性感染症である。2011年に中国でSFTSと命名された新規感染性疾患が報告されて以来¹⁾、中国国内の調査から現在7つの省(遼寧省、山東省、江蘇省、安徽省、河南省、河北省、浙江省)で患者発生が確認されている^{1,2)}。国内で初めて、発熱や血小板減少等の症状を呈し亡くなった患者が、ウイルス学的にSFTSVによる感染症と診断されたので報告する。

2012年秋、海外渡航歴のない成人患者に、発熱、嘔吐、下痢(黒色便)が出現した。入院時身体所見では、明らかなダニ咬傷はなく、血液検査所見では、白血球数(400/mm³)と血小板数(8.9 × 10⁴/mm³)が著明に低下していた。また、AST、ALT、LDH、CKの高値が認められた。血液凝固系の異常、フェリチンの著明な上昇も認められた。尿検査で血尿、蛋白尿が認められた。胸腹部単純CTでは右腋窩リンパ節腫大を認めた。骨髓穿刺検査により、マクロファージによる血球貪食像を伴う低形成髄の所見が認められた。その後に四肢脱力および肉眼的血尿と多量の黒色便を認め、全身状態が不良となり死亡した。入院中に採取された血液からウイルスが分離され、SFTSVと同定された。また血液中にSFTSV遺伝子が含まれることが確認された。血清はELISA、IF法によるSFTSVに対する抗体検査において陰性であった。病理組織においてSFTSVの抗原及び核酸が確認された。

SFTSVは3分節の1本鎖RNAを有するウイルスで、クリミア・コンゴ出血熱やリフトバレー熱、腎症候性出血熱やハンタウイルス肺症候群の原因ウイルスと同様にブニヤウイルス科に属する。中国からの報告では、マダニ[フタトゲチマダニ(*Haemaphysalis longicornis*)、オウシマダニ(*Rhipicephalus microplus*)]からウイルスが分離されており^{1,3)}、SFTSVの宿主はダニであると考えられている。また、ダニに咬まれることの多い哺乳動物からSFTSVに対する抗体が検出されていることから、これらの動物もSFTSVに感染するものと考えられる¹⁾。ヒトへの感染は、SFTSVを有するダニに咬まれることによるが、他に患者血液や体液との直接接触による感染も報告されている⁴⁾。ウイルス血症を伴う動物との接触による感染経路もあり得ると考えられる。SFTSVに感染すると6日～2週間の潜伏期を経て、発熱、消化器症状(食欲低下、嘔気、嘔吐、下痢、腹痛)、頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、リンパ節腫脹、呼吸器症状(咳、咽頭痛)、出血症状(紫斑、下血)等の症状が出現し、致死率は10%を超える^{1,5)}。SFTSはダニ媒介性ウイルス感染症であることから、流行期はダニの活動が活発化する春から秋と考えられる。ダニは日本国内に広く分布する。ただし、詳細はこれからの研究を待たなくてはならない。

確定診断には、血液などからのSFTSVの分離・同定、RT-PCRによるSFTSV遺伝子検出、急性期及び回復期におけるSFTSVに対する血清IgG抗体価、中和抗体価の有意な上昇の確認が必要であり、現在国立感染症研究所ウイルス第一部で検査が可能である。治療に関しては、リバビリン使用の報告があるが²⁾、その有効性は確認されていない。基本的に対症療法となる。有効なワクチンはない。

医療機関における院内感染予防には、ヒトからヒトに感染する接触感染経路があることから⁴⁾、標準予防策の遵守が重要である。また、臨床症状が似た患者を診た場合にはSFTSを鑑別診断に挙げることが重要である。

SFTSVに感染しないようにするには、ダニに咬まれないようにすることが重要である。草むらや藪など、ダニの生息する場所に入る場合には、長袖の服、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが重要である。

SFTSが疑われる患者を診た場合には、最寄りの保健所、または、国立感染症研究所問い合わせ窓口(info[アットマーク]nih.go.jp)に連絡していただきたい。

*[アットマーク]は@に置き換えて送信してください。

参考文献

- 1) Yu XJ, *et al.*, N Engl J Med 364: 1523-32, 2011
- 2) Li S, *et al.*, Biosci Trends 5: 273-6, 2011
- 3) Zhang YZ, *et al.*, J Virol 86: 2864-8, 2012
- 4) Tang X, *et al.*, J Infect Dis ahead of print, 2013
- 5) Xu B, *et al.*, PLoS Pathog 7: e1002369, 2011

国立感染症研究所ウイルス第一部 西條政幸 下島昌幸
同感染症情報センター 山岸拓也 大石和徳
同獣医科学部 森川 茂
同感染病理部 長谷川秀樹

(IASR 2013年2月号掲載予定記事)



感染症の話

*本記事は、国立感染症研究所ホームページ(<http://www.nih.go.jp/niid/ja/>)に掲載されている各疾患の説明とは、を掲載しています。

AIDS(後天性免疫不全症候群) < 前編 >

後天性免疫不全症候群(acquired immunodeficiency syndrome, AIDS, エイズ)は、ヒト免疫不全ウイルス(human immunodeficiency virus; HIV)感染によって生じ、適切な治療が施されないと重篤な全身性免疫不全により日和見感染症や悪性腫瘍を引き起こす状態をいう。近年、治療薬の開発が飛躍的に進み、早期に服薬治療を受ければ免疫力を落とすことなく、通常の生活を送ることが可能となって来た。とはいえ、世界中で感染者が3,400万人を超え、毎年250万人の新規感染者と150万人以上のAIDSによる死亡者が発生している事実から考えると、いまだ人類が直面する最も深刻な感染症の一つと言っていい。また、自分やパートナーへの感染を予防し、且ついわれのない差別や偏見をなくすためにも、AIDS/HIV感染症に関する正確な情報を知ることが非常に重要なことである。

はじめに

近年HIV感染症に対する治療薬や治療方法の進歩により、感染者の予後は飛躍的によくなった。国連エイズ合同計画(UNAIDS)によれば2011年の世界の新規HIV感染者数はいまだ250万人を数えるものの徐々に減り始めており、25の国々で前年比50%もしくはそれ以上の減となった。この新規感染者数の減少のうち半分は新生児感染の減少によるものであったことは、HIVに対してささやかとはいえ人類の反撃が功を奏していると言っていいのかもしれない。しかし、中東、北アフリカ、東欧や中央アジアでは現在も感染者数は増加し続けており、異なるサブタイプによる組み換えウイルスの出現も報告されている。日本もここ数年は新規感染者数が頭打ちであるとはいえ、累計で2万人を突破し、毎年1,000人を超える新規感染者が発生している。また、薬剤耐性ウイルスや免疫逃避ウイルスの広がり、AIDSまでの進行が非常に早いウイルスの出現等の報告も相次いでいる。一方で、新薬が次々と発売され、ついに一日一回しかも一錠飲めばいい薬まで登場し、感染者にとってこれ以上ないほど服薬しやすい環境が整った。しかし、長期治療症例のなかには、ウイルスの抑制が良好であるにもかかわらず、通常より若年で癌や認知障害がみられるケースが増えて来ている。このことは、長期予後を視野に入れた治療薬の選択が今後非常に重要になってくることを意味している。AIDS/HIV感染症に対する薬物治療の考え方は新しい段階に入ったといってもいいであろう。

疫学

1) 2011年の世界の感染者数

UNAIDSの報告によると、2011年末の世界のHIV感染者(生存者)総数は3,420万人、年間感染者発生数は250万人と推定されている(図1)。地域別に見ると、依然としてサハラ以南のアフリカの流行(2,350万人)が深刻であり、次いで南・東南アジアの感染者数が多い(420万人)(図1)。

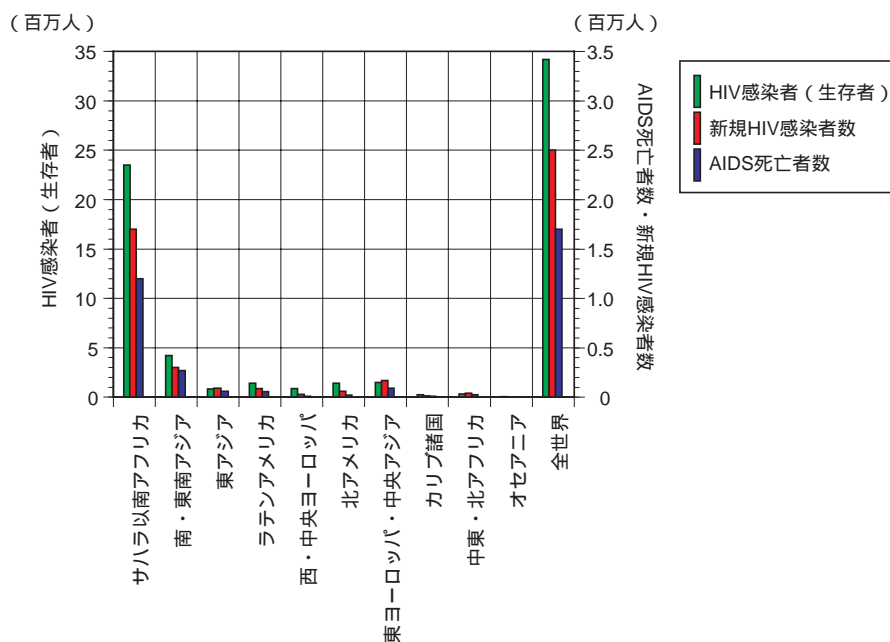


図1. 世界のHIV感染者、新規HIV感染者、AIDSによる死亡者数

(2012年7月、UNAIDS発表Fact Sheetよりデータを引用)

2) 最近10年間の世界の感染動向

HIV感染者総数は増加傾向にあるが、エイズ死亡者数や新規HIV感染者数は減少傾向になっている(図2)。サハラ以南のアフリカをはじめ低・中所得国での抗レトロウイルス治療の普及が進んで死亡数が減少したこと、また抗レトロウイルス治療によるウイルス量の集団としての低下による感染可能性の低下と効果的な予防プログラムの組み合わせによって、新規感染者数が減少傾向になったためと考えられている。一方で、抗レトロウイルス治療を必要とする1,480万人のうち46%は治療を受けられておらず、またラテンアメリカ(70%)やカリブ諸国(67%)と比べて、東ヨーロッパや中央アジア(23%)、中東や北アフリカ(13%)では治療体制の整備が遅れており、新たな感染が増加していることが報告されている。さらに自身のHIV感染を知らない人々の割合が60%以上という報告があり、抗レトロウイルス治療のよりいっそうの普及とともに、HIV検査の普及にも対策を講じる必要がある。

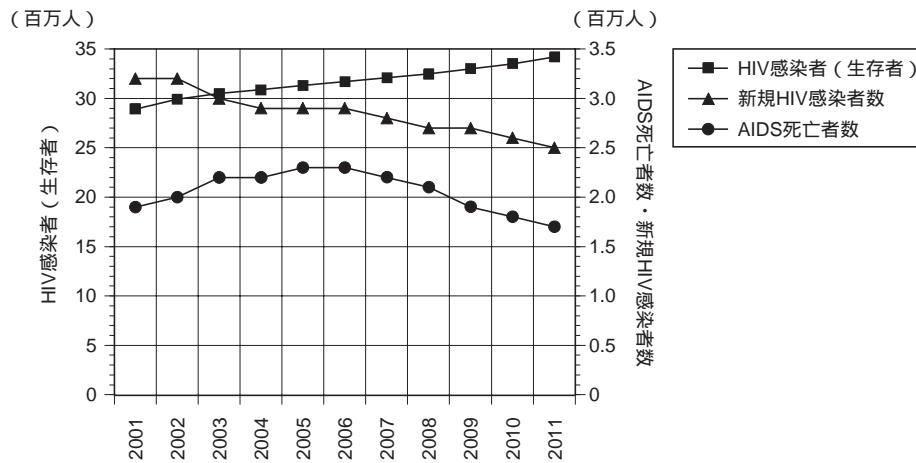


図2. 世界のHIV感染者、新規HIV感染者、AIDSによる死亡者数の年次推移
(2012年7月、UNAIDS発表Fact Sheetよりデータを引用)

3) 日本の感染動向

日本国内では、厚生労働省エイズ動向委員会の報告によると、2011年の新規HIV感染者は1,056件、AIDS患者は473件で、うち日本国籍男性例がHIV感染者の87.4%(923件)、AIDS患者の88.6%(419件)と大半を占めている。HIV感染者報告数は、2004年以降著しい増加を示したが、2008年以降は横ばい状態で推移している(図3a)。ただ、この時期から保健所等における無料HIV検査数が減少しており、そのことが報告数に反映されている可能性がある。一方AIDS患

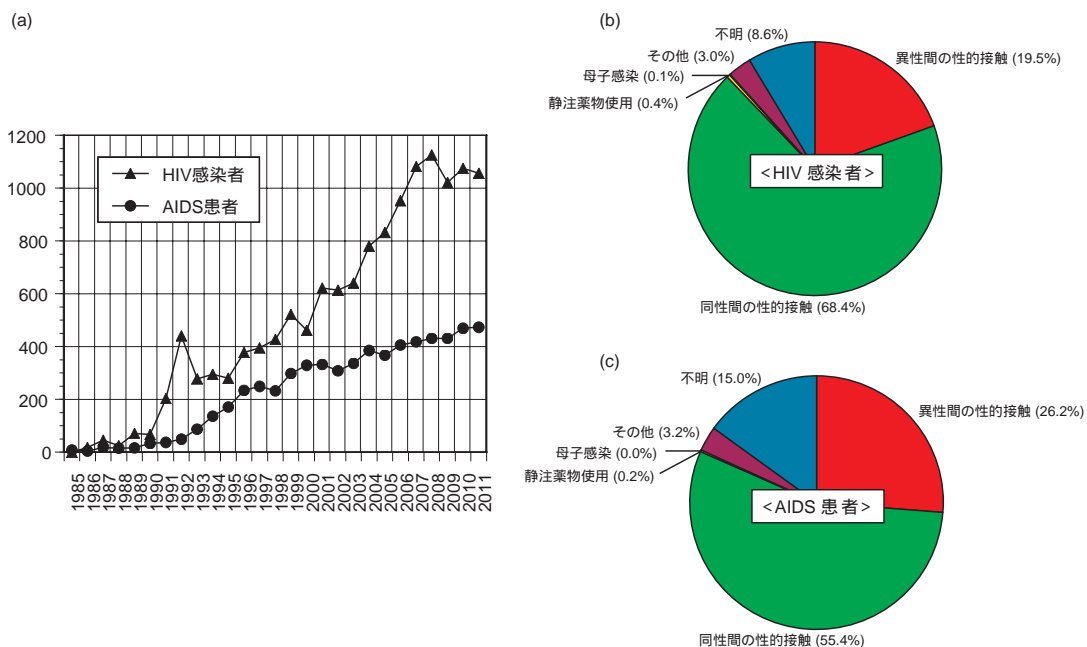


図3.(a) 日本国内のHIV感染者(無症候性キャリア)およびAIDS患者の新規報告数の年次推移。(b),(c) 2011年国内HIV感染者及びAIDS患者報告例の感染経路別内訳。
(いずれも厚生労働省エイズ動向委員会発表データをもとに作成)

者数は引き続き増加の傾向を示し、全報告数の3割以上を占めている。このような「いきなりエイズ」の感染例では、無症候期の間に周辺で感染が広がっている可能性がある等の問題が指摘されている。早期診断のためのよりいっそうの啓発活動や検査体制の充実が望まれる。図3b,cに示したように、感染経路別では、HIV感染者・AIDS患者のいずれにおいても男性同性間の性的接触によるものが多く(68.4%、55.4%)、感染経路が判明しているケースのほとんどは、異性間を含む性的接触によるものであった。

4) サブタイプ分類

HIVは、そのゲノムの構造の違いからHIV-1とHIV-2に分類され、HIV-1は遺伝学的系統関係からグループM、N、O、Pの4つに大別される(図4)。現在の世界的流行の原因ウイルスは、HIV-1グループMに属するウイルスである。これらはさらにA-D、F-H、J、Kの9つのサブタイプ、さらにこれらの組換えゲノムを持つ組換体に分類される。この組換体のうち、ある地域における流行に重要な役割を果たしているものを組換型流行株(Circulating Recombinant Form、CRF) それ以外のものをUnique Recombinant Form(URF)と区別する(図4a)。近年の世界流行の約半数はサブタイプCによるもので、以下サブタイプA、B、CRF02_AG、CRF01_AE、サブタイプGと続く(図4b)。一方我が国では、2003年から2008年に収集された臨床株の87.9%がサブタイプBであり、次いでCRF01_AEが8.4%、サブタイプC感染例は1.2%にすぎない(Antiviral Research(2010)88:72-79, Hattoriら)(図4c)。このように地域によって流行しているサブタイプ/CRFの分布が異なっている。

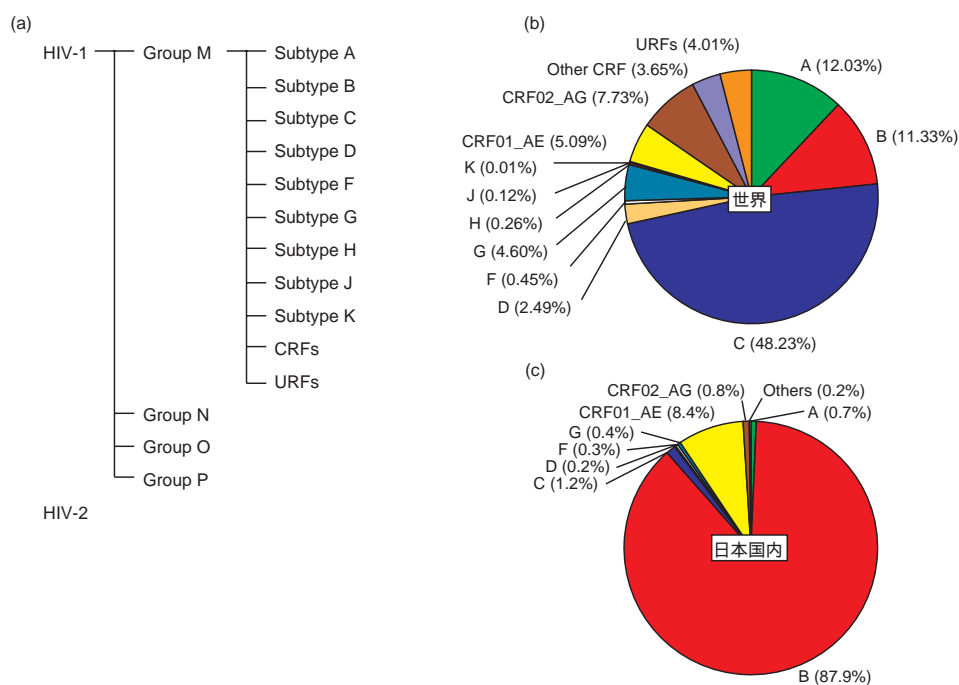


図4.(a) HIVの分類。(b) 2004年から2007年に報告された世界のHIV-1サブタイプ/CRF分布。
(Hemelaarら, AIDS, 2011, 25: 679-689の図を改変)
(c) 2003年から2008年の日本国内検体のHIV-1サブタイプ/CRF。
(Hattoriら, Antiviral Res, 2010, 88: 72-79のデータから作成)

< 最近の話題 : 国内におけるHIV-2感染例 >

平成14年および18年に報告された、外国において感染し国内で同定されたHIV-2感染症例に続き、平成21年、愛知県における5例のHIV-2感染症例が報告された。うち3例は来日中のアフリカ系外国人男性であったが、残り2例は日本人女性で、国内においてアフリカ系外国人男性との性交渉によって感染したと推定される。今後もHIV-2感染症例が増える可能性が否定できない。これらの症例についてはすでに厚生労働省より健康危険情報が出されており、HIV-2感染例を念頭に置いた検査体制が取られている。

病原体

1) HIVの構造

HIVは直径約110nmのRNA型エンベロープウイルスで、その粒子内部に約9,500塩基からなる2コピーの(+)鎖RNAゲノム、逆転写酵素やインテグラーゼなどのウイルス蛋白質を含むコア構造とそれを取り囲む球状エンベロープによって構成される(図5)。ウイルス粒子の外側を構成するエンベロープには、糖蛋白質gp120とgp41の三量体からなる5-10個程度のスパイクが外側に突き出していて、標的細胞であるヘルパーT細胞やマクロファージ表面に発現しているCD4レセプ

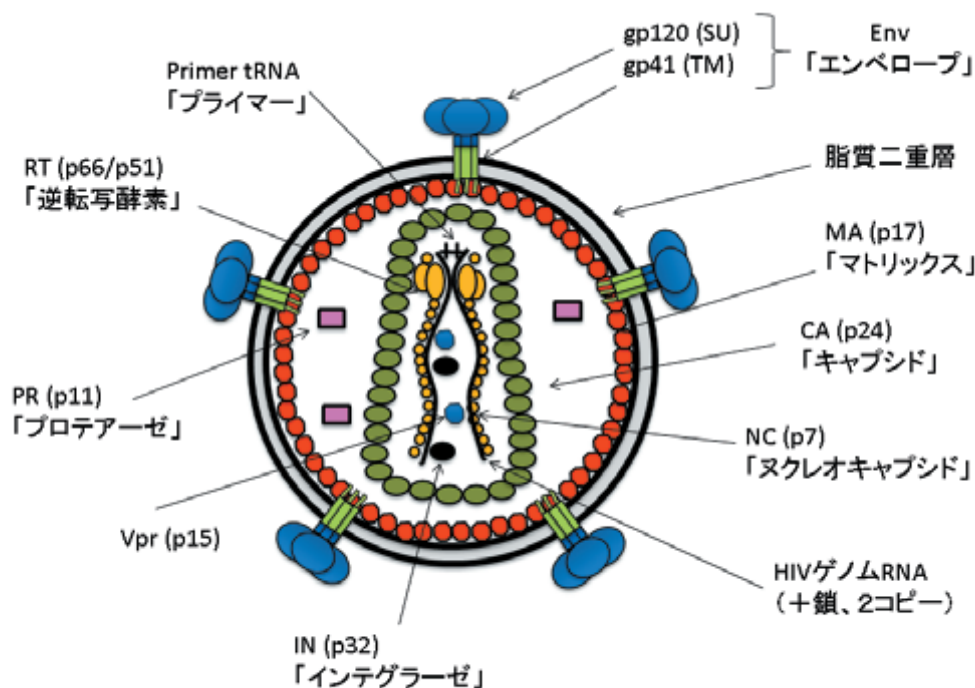


図5. HIV粒子の構造(模式図)

HIV遺伝子と遺伝子産物(この図では、HIV-1)の構造と構成を模式的に示す。ウイルス粒子内部に砲弾型のコア構造を持ち、その内部に約9,500塩基からなる2コピーの(+)鎖RNAゲノム、逆転写酵素やインテグラーゼなどのウイルス蛋白質を含む。ウイルス粒子の外側を構成するエンベロープには、糖蛋白質gp120とgp41の三量体からなる5-10個程度のスパイクが外側に突き出している。

ターとケモカインレセプターCCR5またはCXCR4に結合して感染・侵入する。HIVは血清学的・遺伝学的性状の異なるHIV-1とHIV-2に大別される(図6)。HIV遺伝子は、両端に存在するLTR (long terminal repeat) と呼ばれる遺伝子領域と、*gag*, *pol*, *env* の3個の主要な構造遺伝子、*tat*, *rev* の2個の調節遺伝子、*nef*, *vif*, *vpr*, *vpu*(HIV-1のみ), *vpx*(HIV-2のみ)の4個のアクセサリー遺伝子から構成され、複雑かつ精巧な遺伝子発現調節機構によって制御されている。

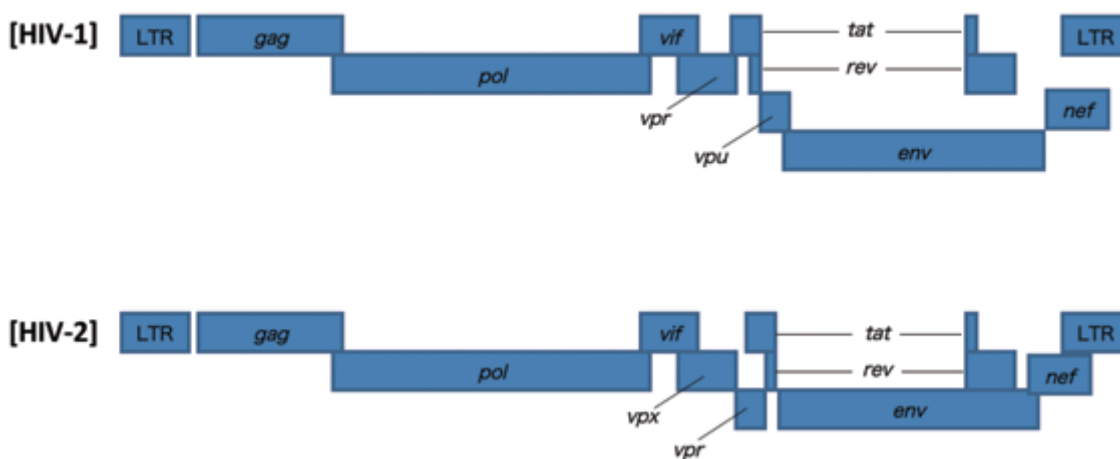


図6. HIV遺伝子の構造

HIVは血清学的・遺伝学的性状の異なるHIV-1とHIV-2に大別される。HIV遺伝子は、両端に存在するLTR(long terminal repeat) *gag*, *pol*, *env* の3個の主要な構造遺伝子、*tat*, *rev* の2個の調節遺伝子、*nef*, *vif*, *vpr*, *vpu*(HIV-1のみ), *vpx*(HIV-2のみ)の4個のアクセサリー遺伝子から構成され、複雑かつ精巧な遺伝子発現調節機構によって制御されている。

2) HIVの複製サイクルと宿主細胞の感染抑制因子

HIVの複製サイクルは、「前期過程」と「後期過程」に大別できる(図7)。HIVは宿主細胞表面に発現しているCD4レセプターとケモカインレセプターCCR5またはCXCR4に結合する(吸着・結合)。引き続きウイルス膜と細胞膜を融合させ(膜融合)、ウイルスのコアを細胞質に注入する。コアの崩壊(脱殻)に伴い、ウイルスの逆転写酵素の働きによってウイルス一本鎖RNAゲノムは二本鎖DNAに変換され(逆転写)、核内に導入される(核移行)。核内では、ウイルスのインテグラーゼの作用によって二本鎖DNAは宿主の染色体に組込まれる(ウイルスDNAの組込み)。ここまでは前期過程である。後期過程はまず、ウイルスDNAが宿主のRNAポリメラーゼとHIV調節遺伝子産物Tatの協調によってウイルスmRNAに転写される(転写)。ウイルスmRNAはHIV調節遺伝子産物Revなどの作用によって核外に輸送される(核外輸送)。細胞質では、Env蛋白質前駆体(gp160)、Gag蛋白質前駆体(Pr55Gag)、Gag-Pol前駆体(Pr160GagPol)が合成され、細胞膜(形質膜)に輸送される(翻訳・輸送)。細胞膜直下で感染性を有しない未成熟ウイルス粒子は宿主細胞表面から出芽・放出される(出芽・放出)。放出と同時にまたは放出後にウイルスのプロテアーゼによって前述のGag蛋白質前駆体とGag-Pol前駆体は切断され、再構成された構造(コア構造)を形成し、感染性を獲得した成熟ウイルス粒子となる(成熟)。

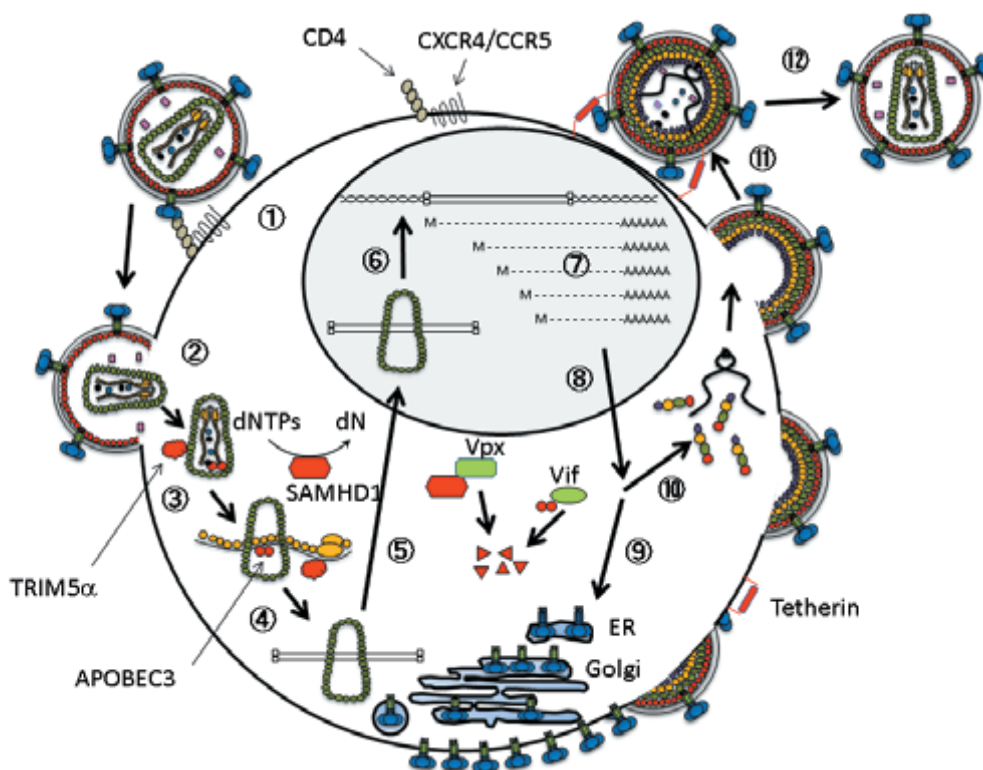


図7. HIVの複製サイクルと宿主細胞の感染抑制因子

HIVの複製サイクルは、前期過程と後期過程からなる。吸着(結合)、膜融合、脱殻、逆転写、核移行、ウイルスDNAの組み込みまでの過程を前期過程と呼び、後期過程は、転写、核外輸送、翻訳/輸送(Env蛋白質)、翻訳/輸送(Gag蛋白質)、出芽/放出、成熟までの過程を指す。これまでに見出されたHIV感染抑制因子(TRIM5、APOBEC、Tetherin)とその作用点を示す。

< 最近の話題 : HIV感染抑制因子(図7参照) >

2000年以降のHIVの基礎研究における最大の話題は、このウイルスと闘う宿主細胞の感染抑制因子とそれらに対抗するウイルス因子の両方に関する知見である。

- 1) TRIM5 : 2004年にアカゲザルにおける抗HIV-1因子として最初に報告されたのがTRIM5である。TRIM5は、細胞に侵入するHIV-1のコア(キャプシド蛋白質)に結合してウイルスの逆転写および核移行の過程を阻害することが明らかにされた。最近このTRIM5が細胞の先天的免疫をも誘導するという結果も報告された。残念ながら、HIV-1では、キャプシド領域のアミノ酸変異によってヒト細胞のTRIM5に対する感受性は実際には弱い。
- 2) APOBEC蛋白質 : もう一つの抗HIV因子はAPOBEC3GをはじめとするAPOBEC蛋白質である。この宿主因子は感染細胞においてウイルス粒子に取込まれると次の感染の逆転写過程を阻害することが明らかになった。この抑制因子に対して、HIVは前述のアクセサリー遺伝子産物の一つであるVifを対抗因子として獲得している。Vifが感染細胞内で発現すると

APOBECと結合してユビキチン化しその複合体全体がプロテアソーム系によって分解することが示された。

3) SAMHD1: ごく最近、SAMHD1がHIVの逆転写過程を阻害する3番目の宿主因子として同定された。SAMHD1はその酵素活性によって細胞内のデオキシヌクレオチド(逆転写酵素の基質)を分解してその量を減少させ、ウイルス複製を逆転写過程で阻害する。HIV-1にはないが、HIV-2やSIVにはあるアクセサリ-遺伝子産物の一つであるVpxがこのSAMHD1をユビキチン・プロテアソーム系によって分解する対抗因子として存在する。

4) Tetherin(BST-2): 4番目の抑制因子は、I型インターフェロンによって誘導される抗HIV因子として2008年に最初に報告されたTetherin(BST-2)である。この膜蛋白質は、HIV感染細胞から産生された子孫ウイルスを細胞膜で繫留しその放出を顕著に阻害する。しかしながら、HIV-1はこの抑制因子に対してもアクセサリ-遺伝子産物の一つであるVpuの作用によって対抗している。HIV-2はVpuを持っていないが、そのEnv蛋白質に抗Tetherin活性を内蔵している。抗Tetherinの作用機序としては、エンドサイトーシスによる細胞表面Tetherinの分解やVpuによるTetherinの小胞体(ER)での捕獲とプロテアソーム依存的な分解が知られている。

以上のような宿主細胞における感染抑制因子とそれらに対するウイルスの抗感染抑制因子の存在から、SIVからHIVへ、すなわちサルからヒトへと種の壁を超えて宿主に適応してきたウイルスと宿主の攻防の歴史をみることができる。また、さらに重要なことは、感染抑制因子とHIVの抗感染抑制因子の相互作用が新しい作用機序を有する抗HIV薬剤開発の標的となりうることであり、今後のこの分野の新薬開発に対する貢献も期待される。

臨床症状

1) 感染経路

主な感染経路には、(1)性的接触、(2)母子感染(経胎盤、経産道、経母乳感染)、(3)血液によるもの(輸血、臓器移植、医療事故、麻薬等の静脈注射など)がある。つまり、血液や体液を介して接触が無い限り、日常生活ではHIVに感染する可能性は限りなくゼロに近いといえる。唾液や涙等の分泌液中に含まれるウイルス量は存在したとしても非常に微量で、お風呂やタオルの共用で感染した事例は今のところ報告されていない。かように、HIVは体外に出るとすぐに不活化してしまう程脆弱なウイルスなのである。

2) 経過

HIV感染の自然経過は感染初期(急性期)、無症候期、エイズ発症期の3期に分けられる(図8)。その間持続的に免疫システムの破壊が進行し、ほとんどの感染者は免疫不全状態へと至る。

- ・ 感染初期(急性期): HIV感染成立の2～3週間後にHIV血症は急速にピークに達するが、この時期には発熱、咽頭痛、筋肉痛、皮疹、リンパ節腫脹、頭痛などのインフルエンザあるいは伝染性単核球症様の症状が出現する。症状は全く無自覚の程度から、無菌性髄膜炎に至るほどの強いものまで、その程度は様々である。初期症状は数日から10週間程度続き、多くの場合自然に軽快する。この時期に診断が出来る時、その後の治療及び経過に

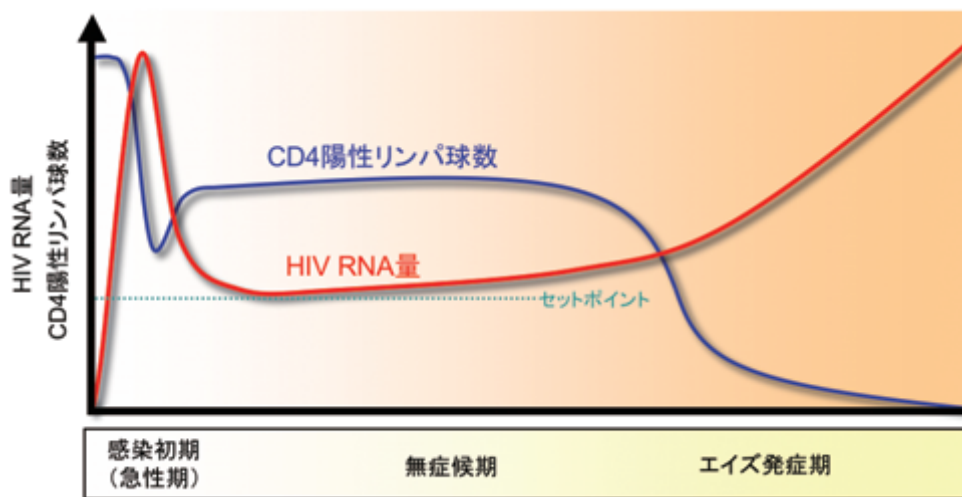


図8. HIV感染症の経過

[第15版HIV感染症「治療の手引き」(<http://www.hivjp.org/>) を一部改変]

圧倒的に有利になる。そのため、アクティブな性行為感染症(STD: 梅毒、淋病、コンジローマ、クラミジア感染症など) を上記急性感染症状と同時に診た時は、HIV感染を考へてみるこゝが重要である(表1)。

無症候期: 感染後の免疫応答(CTL誘導や抗体産生)により、ピークに達していたウイルス量は6~8カ月後にある一定のレベルまで減少し、定常状態(セットポイント)となる。その後数年~10年間ほどの無症候期を過ぎると、発熱、倦怠感、リンパ節腫脹などが出現し、帯状疱疹などを発症しやすくなる。この期間は、HIV感染症に特徴的な症状はほとんどないが、上述したSTDや肝炎、繰り返す帯状疱疹、ヘルペス、結核や口腔カンジダ、赤痢アメーバなどがきっかけとなつてHIV感染が判明することも少なくない(表1)。

表1. HIV検査を考慮すべき臨床状況

- 一般内科・救急領域
 - ・インフルエンザ様症状(特に数日を超えて続くもの)
 - ・伝染性単核症
 - ・原因不明の長期にわたる発熱
 - ・原因不明のリンパ節腫大
 - ・原因不明の脳炎・髄膜炎
 - ・血球減少(3系統いずれの減少も来しうる)
- 消化器領域
 - ・ウイルス性肝炎(A型・B型・C型)
 - ・赤痢アメーバ症(腸炎・肝膿瘍)
 - ・抗菌薬に反応しない虫垂炎(アメーバ症の可能性あり)
 - ・腸管感染症(感染性赤痢・ジアルジア症など)
 - ・肛門周囲膿瘍
 - ・肛門部尖圭コンジローマ
 - ・口腔・食道カンジダ症
 - ・Kaposi肉腫
 - ・悪性リンパ腫
 - ・消化管サイトメガロウイルス感染症
- 皮膚科領域
 - ・帯状疱疹
 - ・繰り返すヘルペス感染症
 - ・難治性の皮膚真菌症
 - ・難治性湿疹
 - ・好酸球性毛嚢炎
 - ・カポジ肉腫
 - ・梅毒
 - ・尖圭コンジローマ
- 泌尿器科・婦人科領域
 - ・尿道炎(淋菌・クラミジア)
 - ・陰部ヘルペス
 - ・尖圭コンジローマ
 - ・その他の性感染症
- 生活歴・既往歴・社会背景
 - ・性感染症の既往
 - ・ウイルス性肝炎の既往
 - ・日和見疾患の既往(若年者の帯状疱疹など)
 - ・男性との性的接触のある男性
 - ・性産業の従事者
 - ・既知のHIV感染者との性的接触
 - ・麻薬・覚醒剤など薬物濫用の既往
 - ・HIV有病率の高い国の出身者
 - ・妊娠女性(早期発見すれば児への感染を予防することができます)

独立行政法人国立国際医療研究センターエイズ治療・研究開発センターホームページ(<http://www.acc.go.jp/doctor/observation.html>)より許可を得て転載させていただきました

エイズ発症期：感染後抗HIV療法が行われないとHIV感染がさらに進行し、CD4陽性T細胞は急激に減少してくる。CD4リンパ球数が200/mm³以下になるとカリニ肺炎などの日和見感染症を発症しやすくなり、さらにCD4リンパ球数が50/mm³を切るとサイトメガロウイルス感染症、非定型抗酸菌症、中枢神経系の悪性リンパ腫などを普通の免疫状態ではほとんど見られない日和見感染症や悪性腫瘍を発症する(図9)。また、食欲低下、下痢、低栄養状態、衰弱などが著明となる。

現在では、きちんと服薬しさえすればウイルス量を測定感度以下まで抑え込むことができ、エイズへと至ることはほとんどなくなった。そのため、いかに早く診断し、適切な治療をはじめることが出来るかが、個人にとっても社会にとってもこの感染症の拡大を押さえ込むための最も重要なポイントといえるのである。

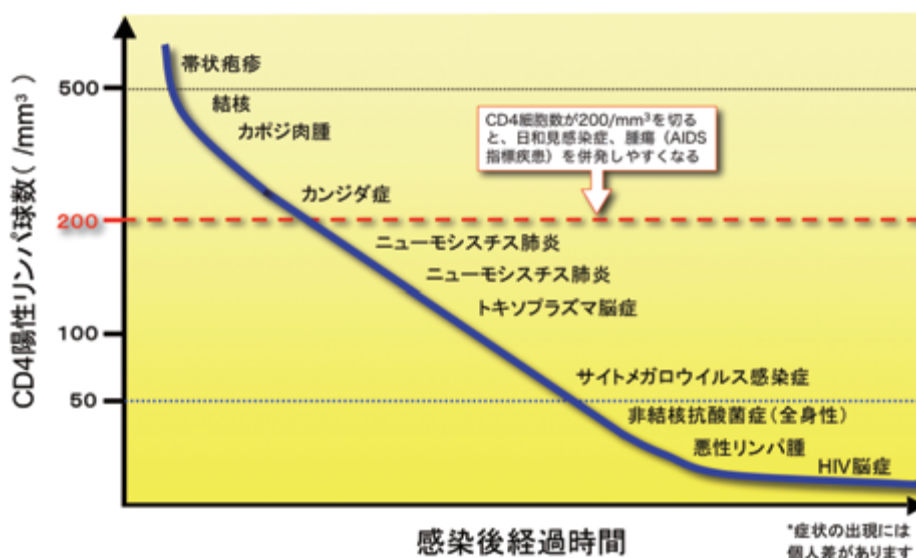


図9. HIV感染症の病状の経過

CD4数が減少し、免疫能が低下するとともに日和見感染症や日和見腫瘍が見られるようになってくる。

< 最近の話題 : HAND >

HIV感染による認知障害ですぐに思い浮かべるのは、以前なら発症者に見られるエイズ脳症 (AIDS Dementia Complex ; ADC) だった。しかし、多剤併用療法が浸透してからは、重篤な状態で脳症を呈する症例はめったにみなくなったため、多くの臨床医はそのことに関心を払わなくなっていた。ところが、近年感染症例の中に軽度の認知症が認められるケースが多いことが報告され、がぜん注目を集めている。これは感染症例に見られる比較的軽度な認知障害をさすもので、HIV関連神経認知障害(HIV-Associated Neurocognitive Dysfunction ; HAND)と呼ばれている。重症度により、1) 顕著な機能障害を伴う認知障害(HIV-Associated Dementia ; HAD)、2) 軽度神経認知障害(Mild Neurocognitive Disorder ; MND)、3) 無症候性神経心理学的障害(Asymptomatic Neurocognitive Impairment ; ANI)の大きく3つに分類される。ANIの場合日常生活は問題なく行えるが、MNDになると日常生活に支障がでて支援が必要となり、HADでは入

院による加療が必要となる場合がある。どうしても服薬が守れない症例の中に、実はこのような病態が潜んでいたとしたら、臨床の現場もこれまでの対応を今一度見直さないといけないであろう。

国立感染症研究所エイズ研究センター 吉村和久

疫 学: 草川 茂、武部 豊

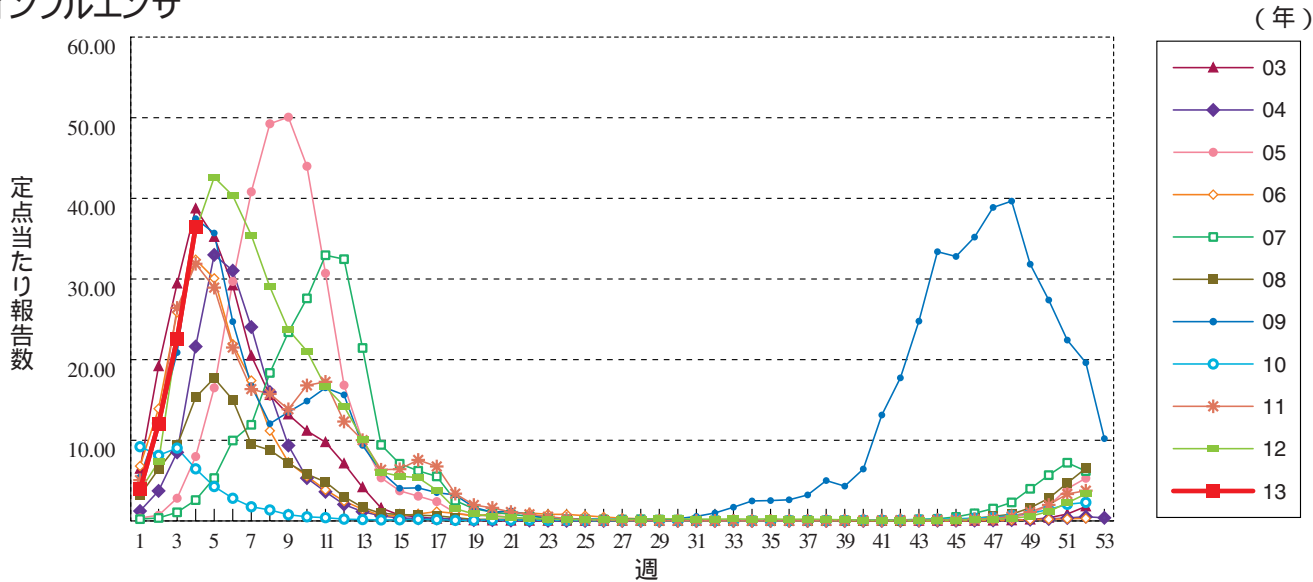
病 原 体: 藤野真之、村上 努

臨床症状: 吉村和久

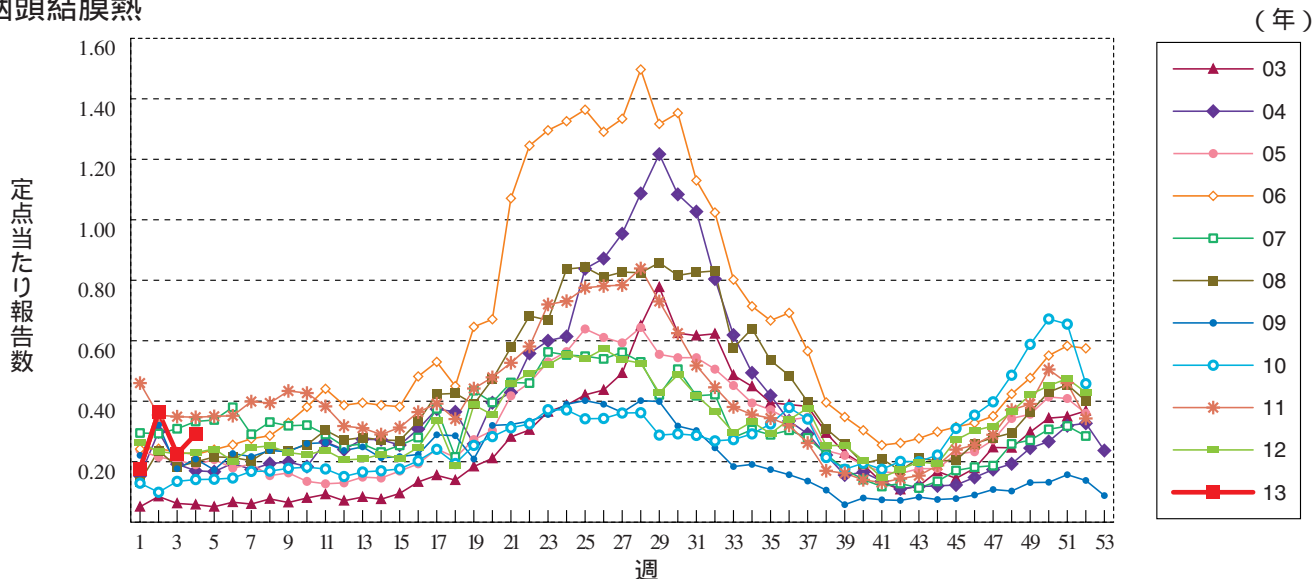


グラフ総覧(4週)

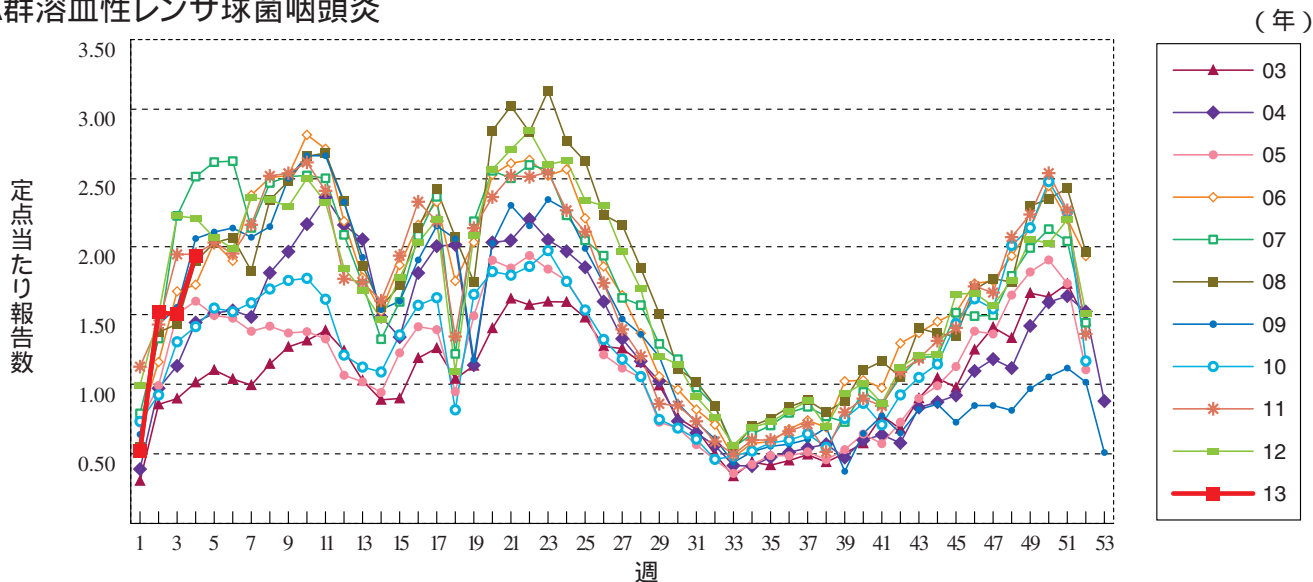
インフルエンザ



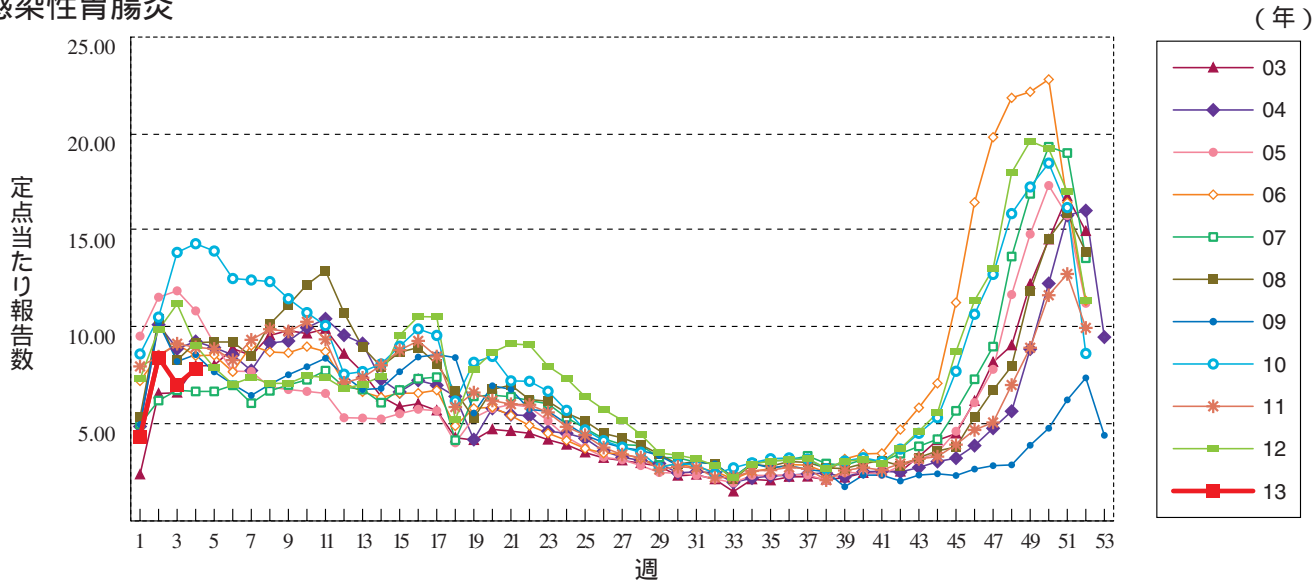
咽頭結膜熱



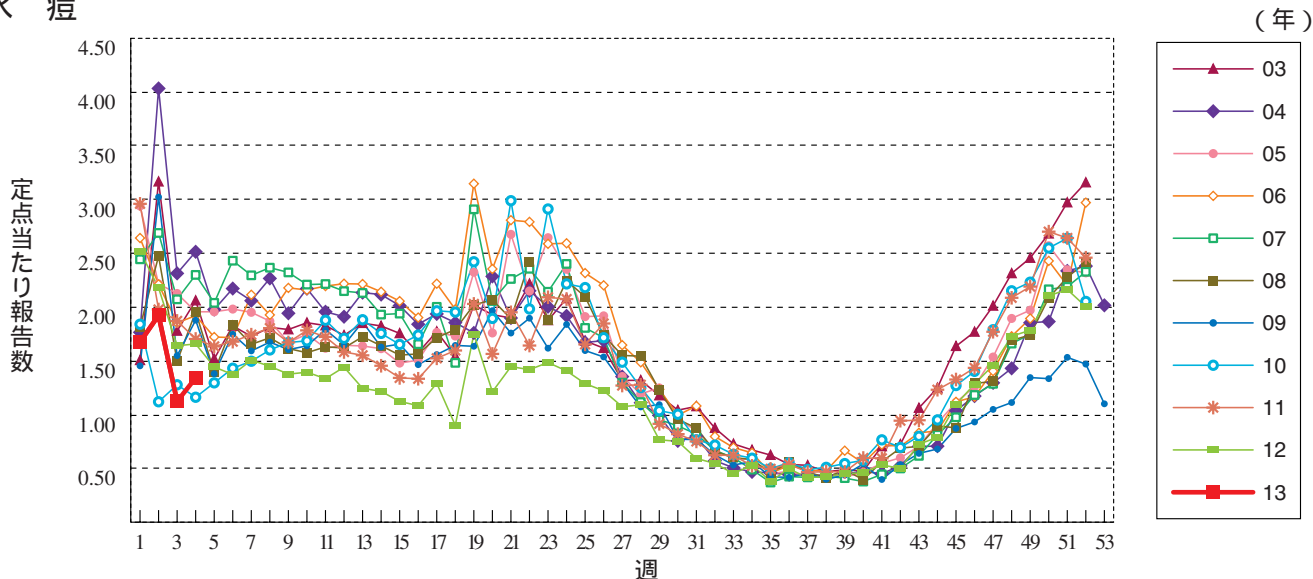
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



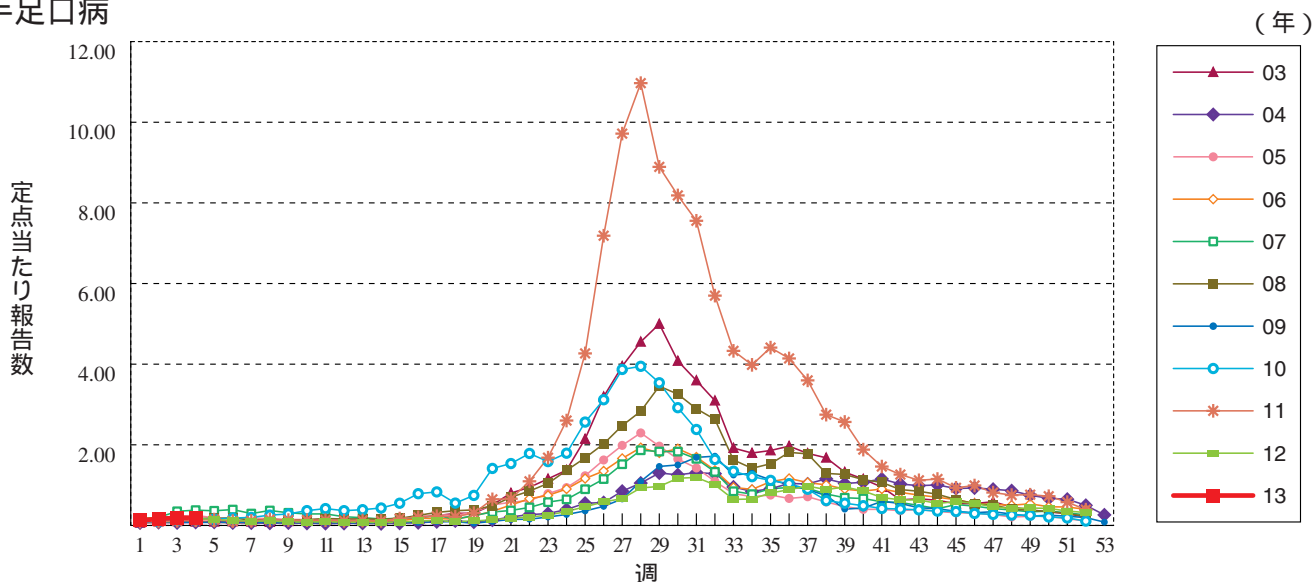
感染性胃腸炎



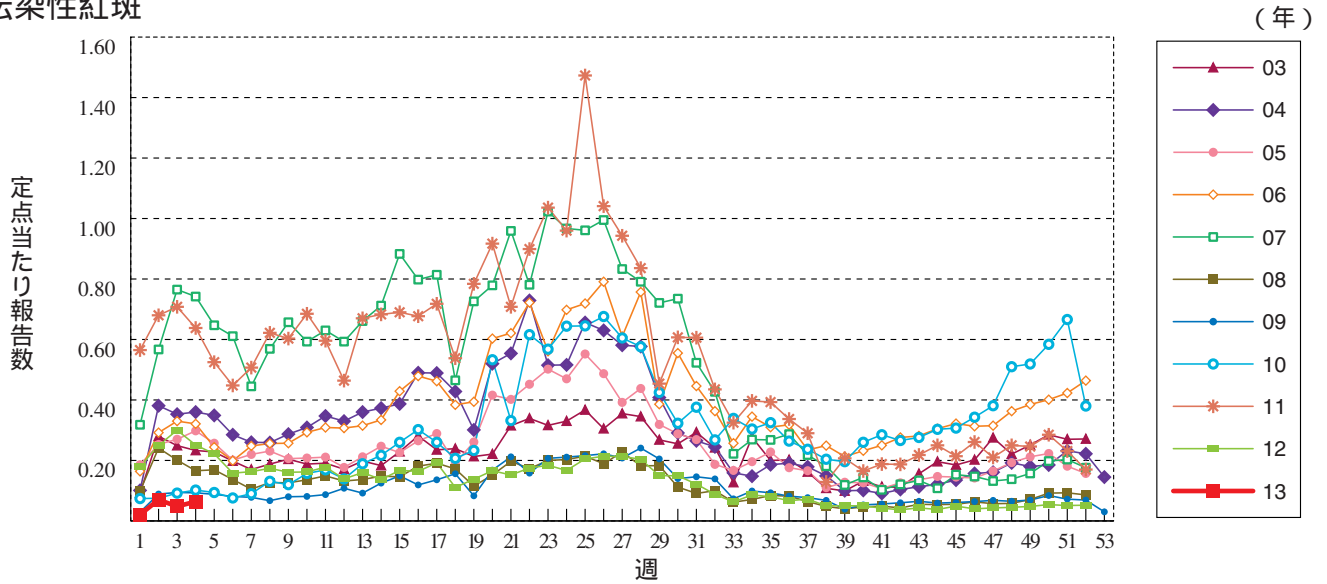
水痘



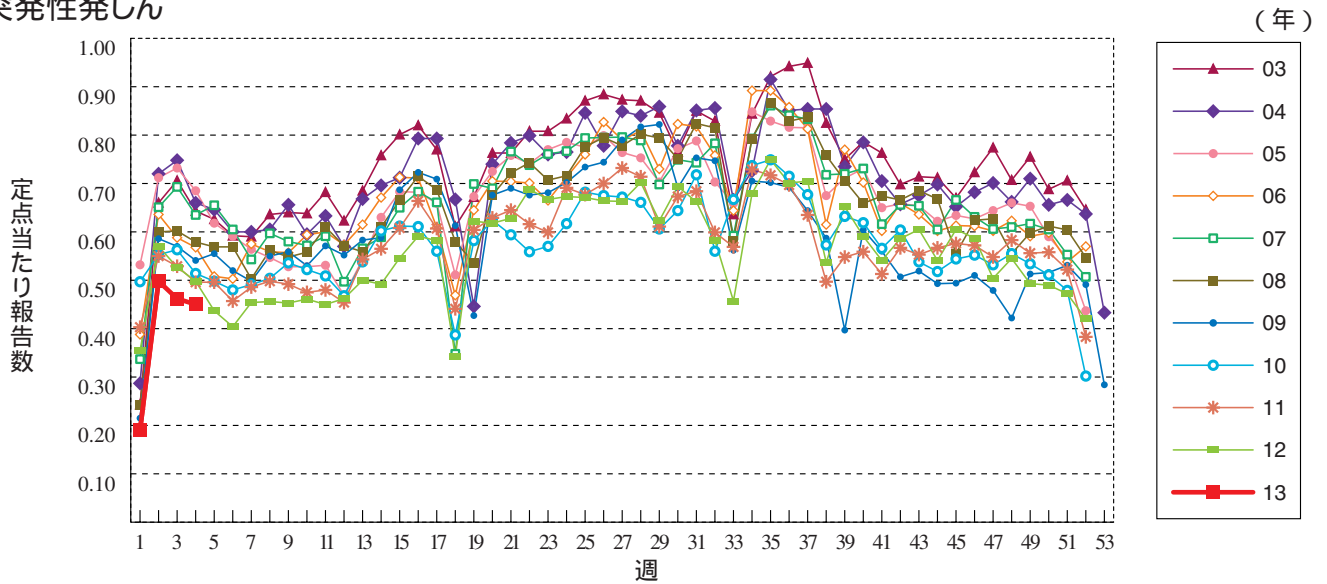
手足口病



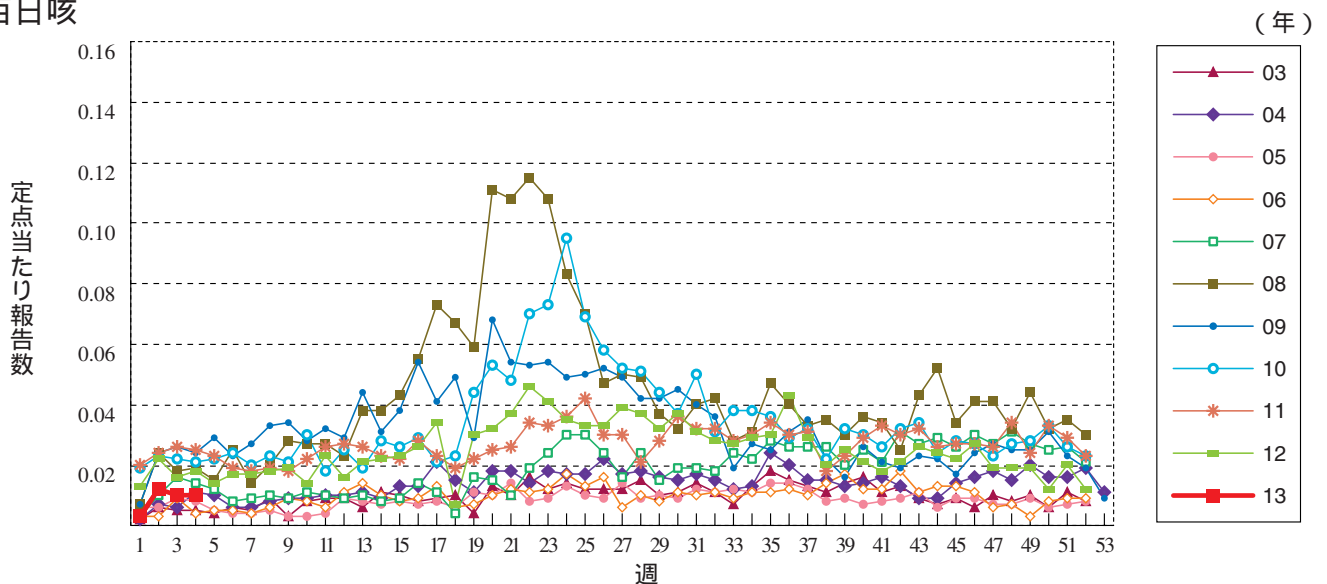
伝染性紅斑



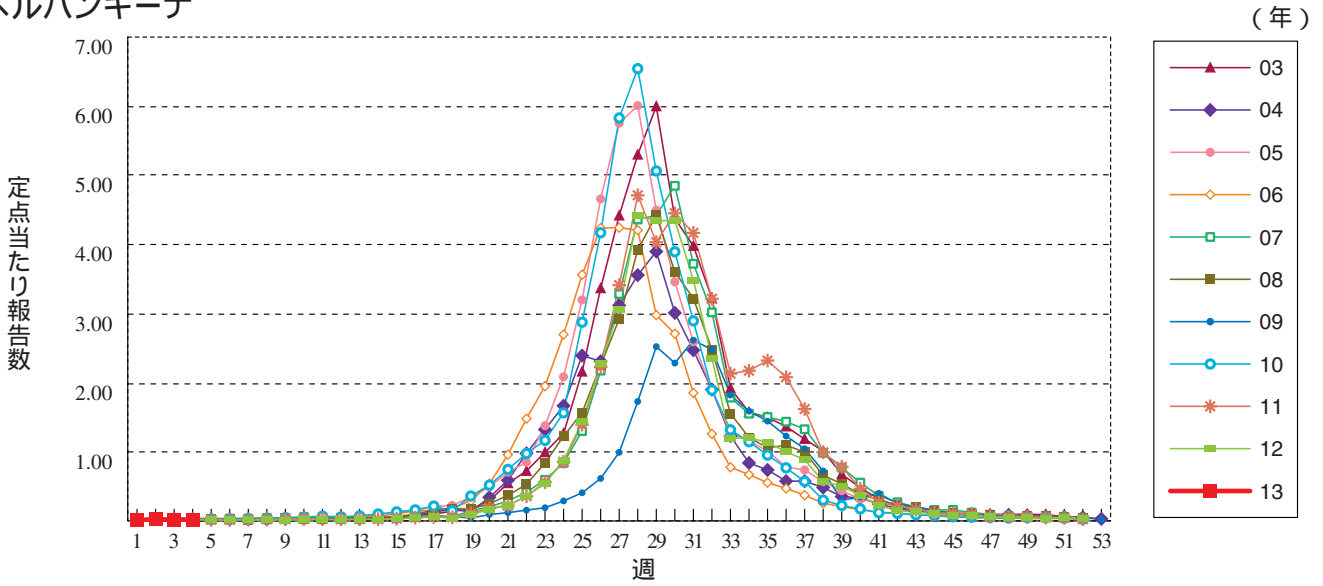
突発性発しん



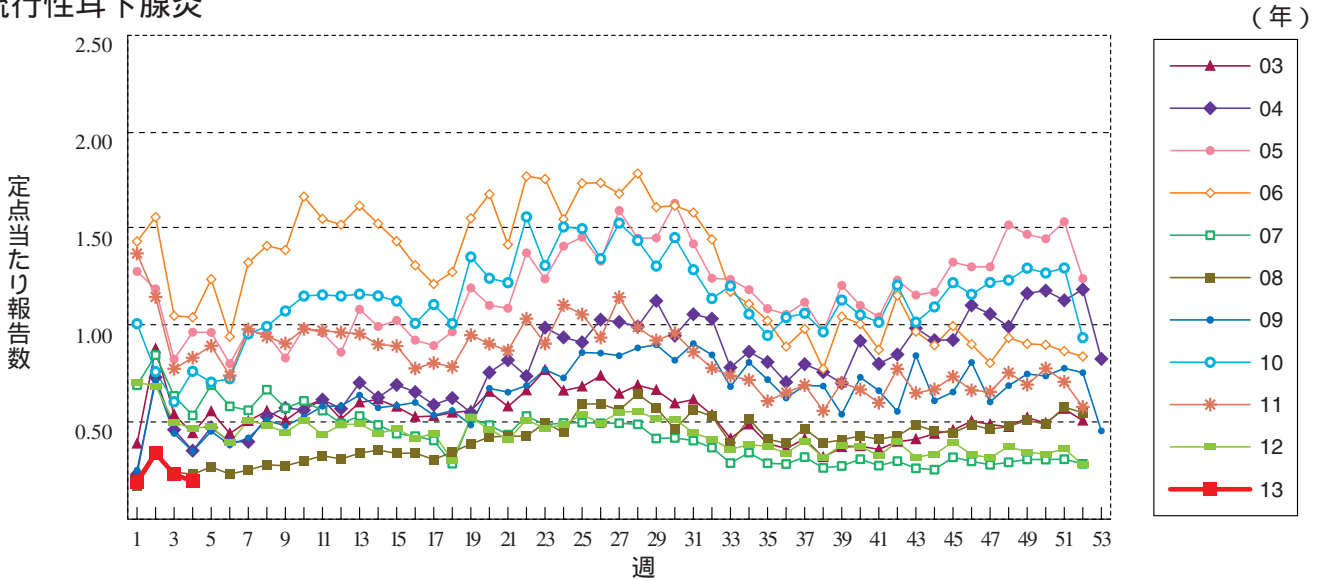
百日咳



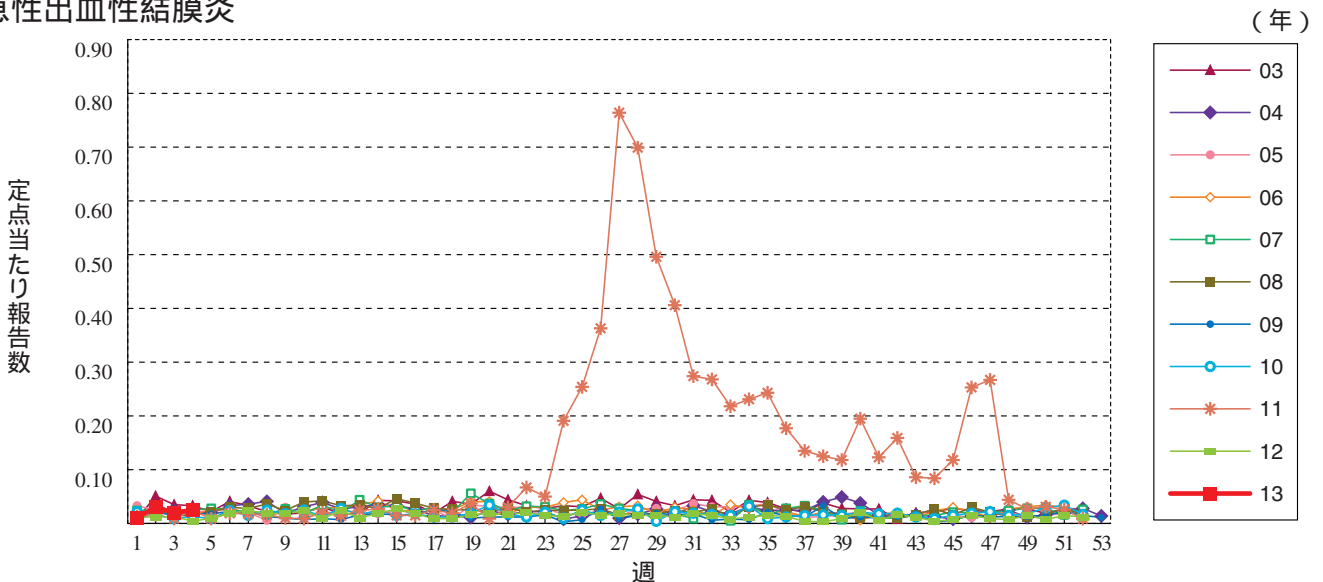
ヘルパンギーナ



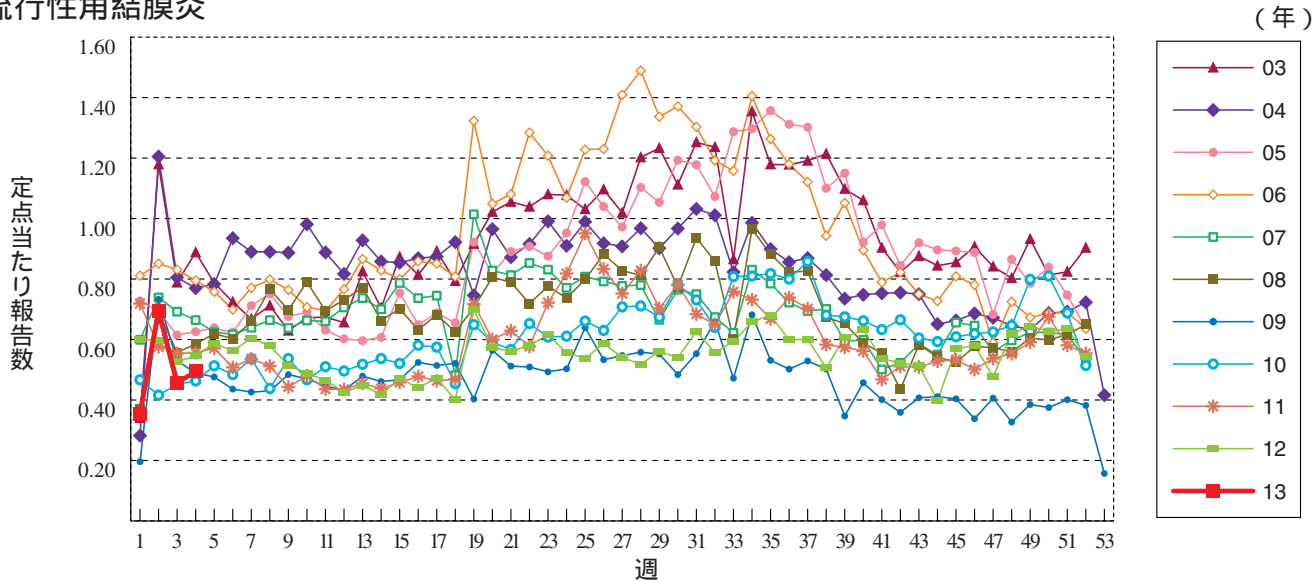
流行性耳下腺炎



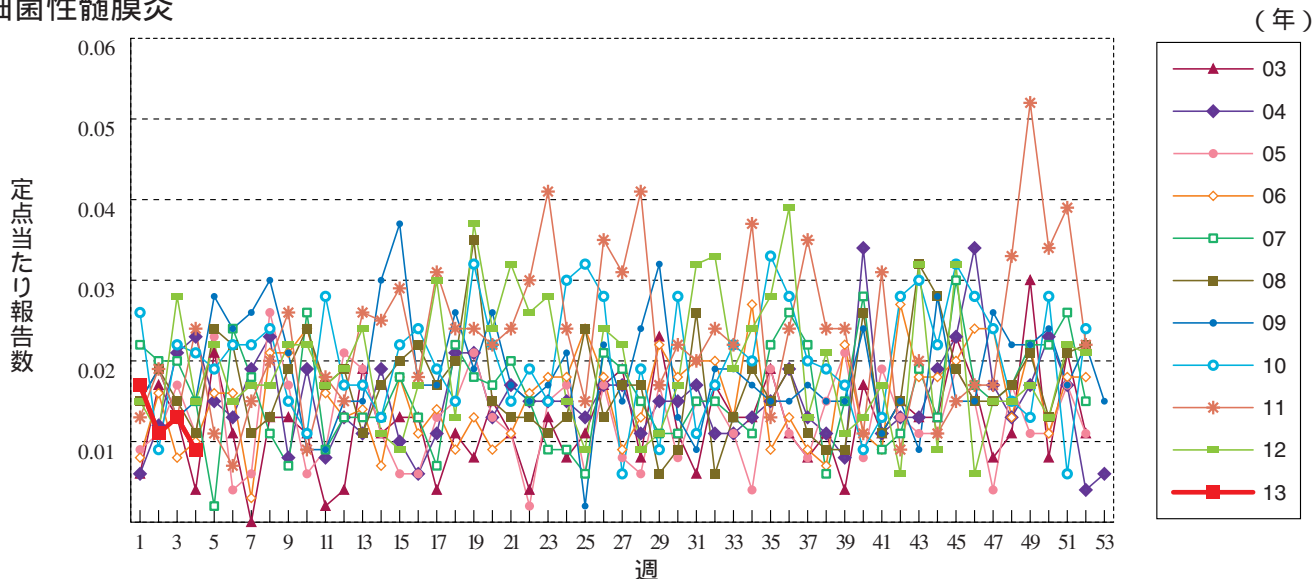
急性出血性結膜炎



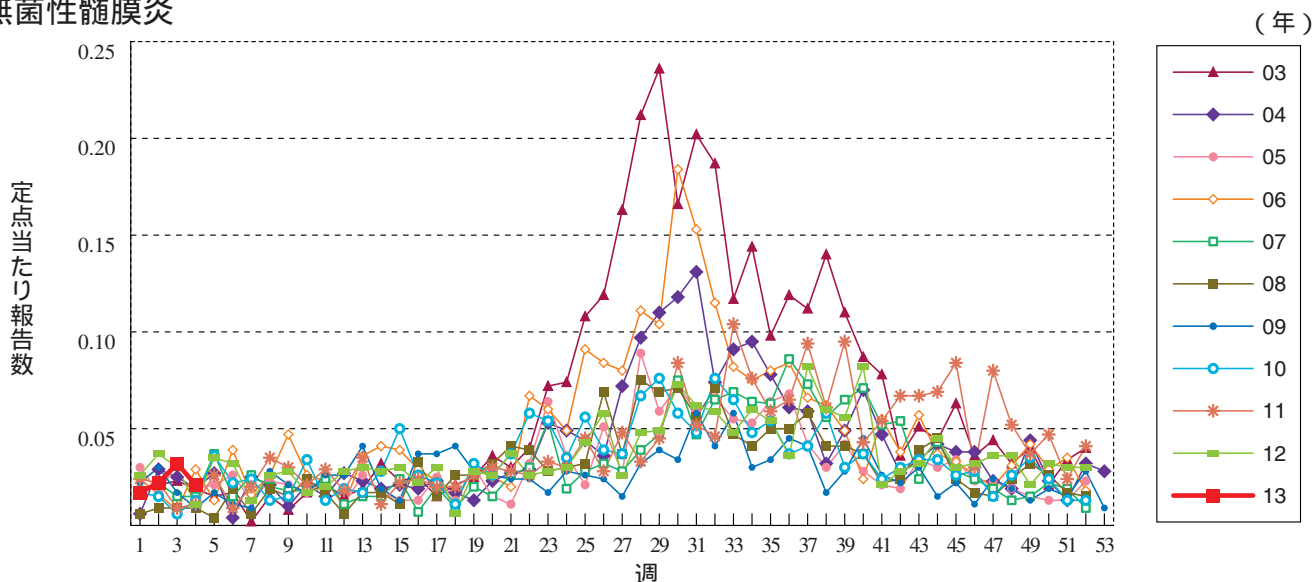
流行性角結膜炎



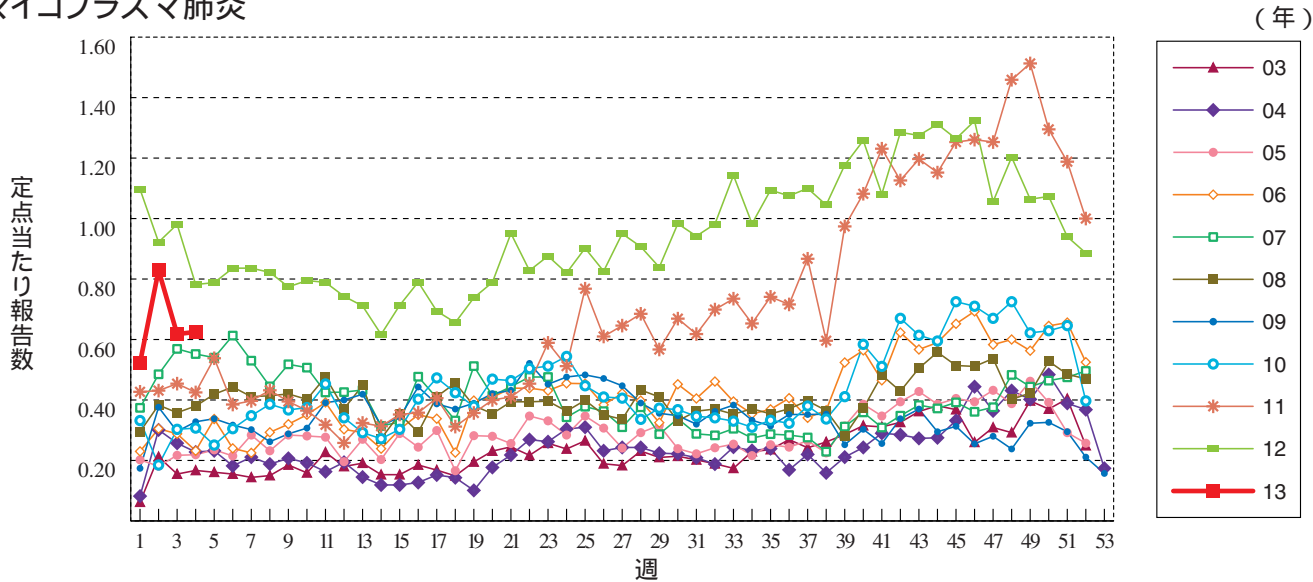
細菌性髄膜炎



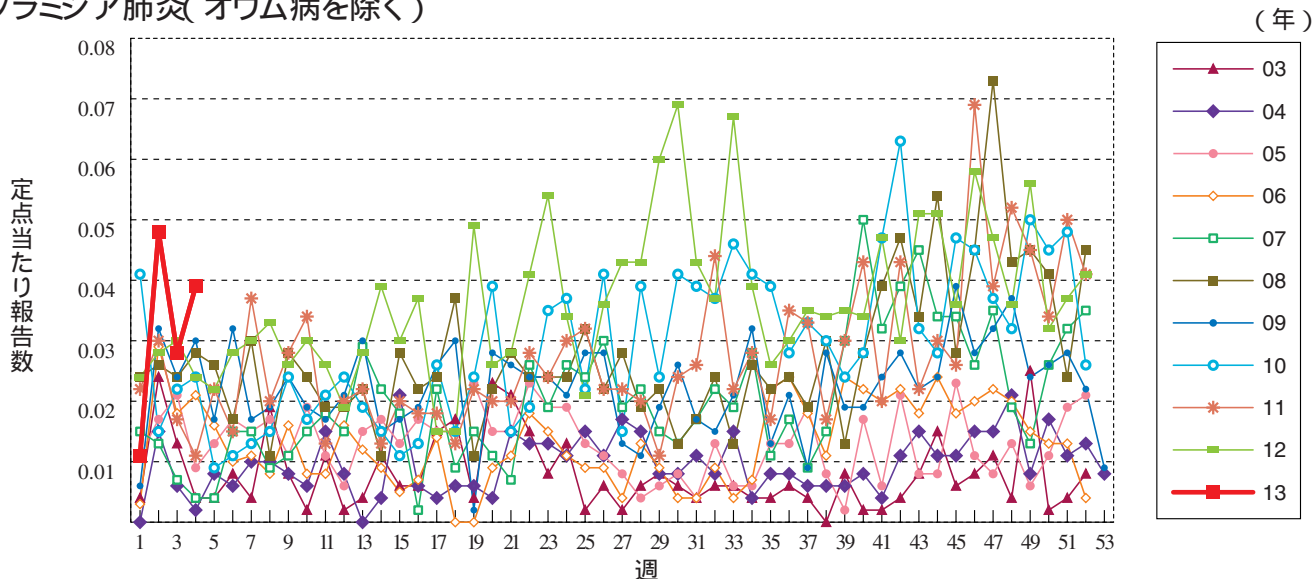
無菌性髄膜炎



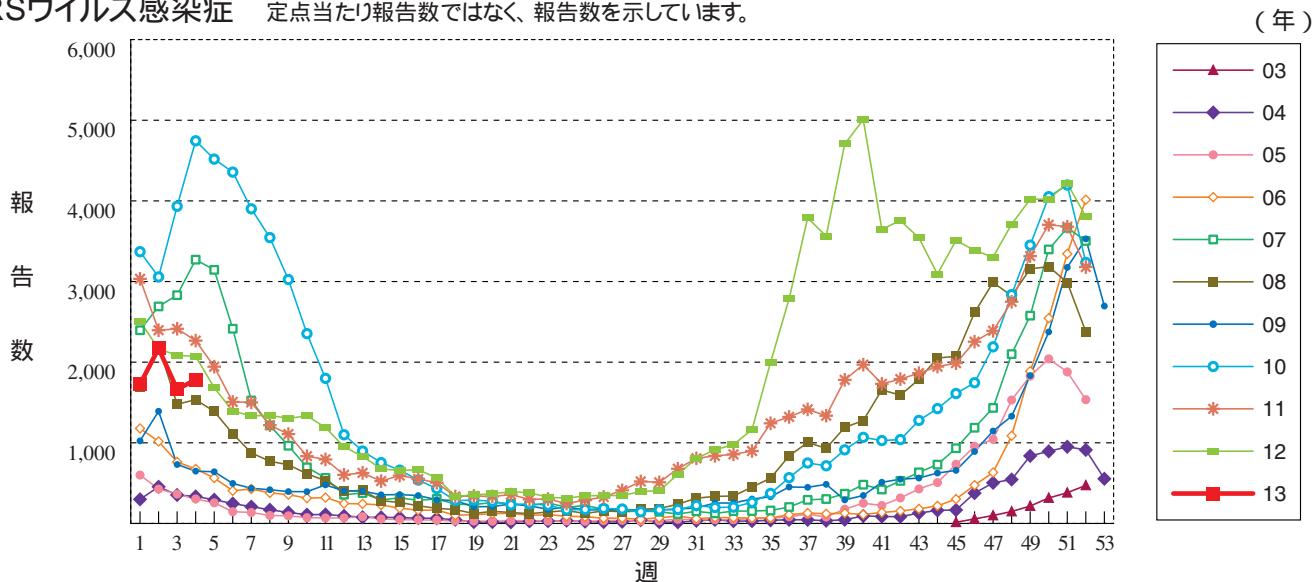
マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎(オウム病を除く)



RSウイルス感染症 定ポイントあたり報告数ではなく、報告数を示しています。





4週のデータ

注) 表中の報告数は1月30日集計分であり、その後の報告は次週以降の累積に反映されます。
 新型インフルエンザは掲載していません。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年4週

	エボラ出血熱		クリミア・コンゴ出血熱		痘 そう		南米出血熱		ペスト		マールブルグ病		ラッサ熱		急性灰白髄炎		結 核	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	353	1395
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	23
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	28
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	11
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	13
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	14
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	18
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	30
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	23
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	14
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	65
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	72
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	232
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25	84
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	21
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	11
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	8
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	13
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	5
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	14
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	28
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	36
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	23	88
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	21
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	20
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	26
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	103
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	62
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	11
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	17
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	10
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	14
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	30
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	12
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	6
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	15
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	8
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	72
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	15
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	22
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	16
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	14
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	11

*病原体がSARSコロナウイルスであるものに限る。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	ジフテリア		重症急性呼吸器症候群*		鳥インフルエンザ (H5N1)		コレラ		細菌性赤痢		腸管出血性大腸菌感染症		腸チフス		パラチフス		E型肝炎	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	6	11	36	-	5	-	4	-	3	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-		
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-		
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-		
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-		
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	3	-	2	-	2	-		
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	1	-	-	-		
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-		
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-		
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1		
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-		
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-		
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-		
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	1	-	-	-		
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-		
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-		
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-		
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-		
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	1	-	-	-		
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-		
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-		
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	ウエストナイル熱		A型肝炎		エキノコックス症		黄熱		オウム病		オムスク出血熱		回帰熱		キャサナル森林病		Q熱	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	2	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	狂犬病		コクシジ オイデス症		サル痘		腎症候性出血熱		西部ウマ脳炎		ダニ媒介脳炎		炭疽		チクングニア熱		つつが虫病	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	19	
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*鳥インフルエンザ(H5N1)を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	デング熱		東部ウマ脳炎		鳥インフルエンザ*		ニパウイルス感染症		日本紅斑熱		日本脳炎		ハンタウイルス肺症候群		Bウイルス病		鼻 疽	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	8	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	ブルセラ症		ベネズエラ ウマ脳炎		ヘンドラウイルス 感染症		発しんチフス		ポツリヌス症		マラリア		野 兎 病		ライム病		リッサウイルス 感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

*E型肝炎およびA型肝炎を除く。

**ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

報告数・累積報告数、疾病・都道府県別

2013年4週

	リフトバレー熱		類鼻疽		レジオネラ症		レプトスピラ症		ロッキー山 紅斑熱		アメーバ赤痢		ウイルス性肝炎*		急性脳炎**		クリプト スポリジウム症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	16	54	1	1	-	-	15	58	2	11	10	38	-	-
北海道	-	-	-	-	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	1	-	-	-	2	3	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	3	5	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	2	-	-	-	2	5	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	4	-	-	-	3	-	-
東京都	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	3	12	-	3	-	5	-	-
神奈川県	-	-	-	-	1	2	1	1	-	-	4	10	1	4	-	1	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	2	-	-	-	2	-	-
富山県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
愛知県	-	-	-	-	2	4	-	-	-	-	2	-	-	-	-	3	-	-
三重県	-	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	3	7	-	1	1	1	-	-
兵庫県	-	-	-	-	2	3	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	1	1	1	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	3	-	-	-	1	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	クローンツェルト・ヤコブ病		劇症型溶血性レンサ球菌感染症		後天性免疫不全症候群		ジアルジア症		髄膜炎菌性髄膜炎		先天性風しん症候群		梅毒		破傷風		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	2	8	4	18	12	70	1	4	-	-	-	1	14	59	-	5	-	-
北海道	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	1	-	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	2	1	4	-	-	-	-	-	-	2	6	-	-	-	-
東京都	-	1	1	2	6	22	1	1	-	-	-	-	5	19	-	2	-	-
神奈川県	-	1	1	4	1	4	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
石川県	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	1	5	-	-	-	-	-	-	1	4	-	-	-	-
愛知県	1	1	-	1	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	1	-	-	-	6	-	-	-	-	1	-	7	-	-	-	-	-
兵庫県	-	1	-	2	-	2	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-
広島県	-	-	-	1	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	1	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年4週

	バンコマイシン耐性腸球菌感染症		風しん		麻しん	
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	9	76	254	7	18
北海道	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	1	1	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	2	-	-
茨城県	-	-	-	1	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	1	2	-	-
埼玉県	-	1	10	27	-	1
千葉県	-	-	4	16	-	4
東京都	-	1	29	119	2	4
神奈川県	-	-	15	38	3	6
新潟県	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	1	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	1	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	4	2	9	-	-
三重県	-	-	-	1	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	1	-	1
大阪府	-	2	5	14	-	-
兵庫県	-	-	7	9	2	2
奈良県	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	1	-	-
広島県	-	-	-	1	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	1	1	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	5	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	1	1	1	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	1	-	-
鹿児島県	-	-	-	1	-	-
沖縄県	-	-	-	1	-	-

*鳥インフルエンザを除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	インフルエンザ*		RSウイルス感染症		咽頭結膜熱		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		感染性胃腸炎		水痘		手足口病		伝染性紅斑		突発性発しん	
	報告数	定点当り	報告数	報告数	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	180085	36.44	1782	917	0.29	6106	1.94	24735	7.85	4228	1.34	569	0.18	203	0.06	1418	0.45	
北海道	8400	37.00	74	51	0.36	449	3.14	408	2.85	153	1.07	17	0.12	2	0.01	57	0.40	
青森県	1983	30.98	20	2	0.05	44	1.07	225	5.49	65	1.59	3	0.07	2	0.05	19	0.46	
岩手県	2024	31.63	3	6	0.15	72	1.80	211	5.28	35	0.88	4	0.10	34	0.85	13	0.33	
宮城県	2850	30.65	25	21	0.36	79	1.36	401	6.91	76	1.31	15	0.26	17	0.29	39	0.67	
秋田県	1230	22.36	8	9	0.26	42	1.20	296	8.46	38	1.09	8	0.23	1	0.03	7	0.20	
山形県	1620	33.75	4	21	0.70	116	3.87	207	6.90	43	1.43	2	0.07	1	0.03	15	0.50	
福島県	3451	45.41	42	4	0.09	92	2.04	237	5.27	64	1.42	9	0.20	-	-	16	0.36	
茨城県	4950	41.25	21	23	0.31	97	1.29	614	8.19	74	0.99	19	0.25	5	0.07	22	0.29	
栃木県	2830	37.73	10	3	0.06	50	1.06	236	5.02	45	0.96	11	0.23	-	-	21	0.45	
群馬県	3836	39.14	1	8	0.13	67	1.12	426	7.10	49	0.82	6	0.10	3	0.05	23	0.38	
埼玉県	12185	49.53	51	41	0.26	323	2.04	1372	8.68	170	1.08	24	0.15	8	0.05	59	0.37	
千葉県	11230	53.22	38	50	0.38	424	3.24	1008	7.69	170	1.30	17	0.13	7	0.05	41	0.31	
東京都	17259	41.29	98	78	0.30	570	2.16	2148	8.14	226	0.86	22	0.08	27	0.10	126	0.48	
神奈川県	13883	41.69	58	30	0.15	331	1.61	1384	6.75	217	1.06	26	0.13	14	0.07	100	0.49	
新潟県	5112	53.81	12	23	0.38	233	3.88	359	5.98	105	1.75	30	0.50	9	0.15	27	0.45	
富山県	1417	29.52	12	19	0.66	160	5.52	277	9.55	32	1.10	9	0.31	9	0.31	5	0.17	
石川県	1536	32.00	7	15	0.52	153	5.28	202	6.97	36	1.24	13	0.45	2	0.07	11	0.38	
福井県	623	19.47	11	5	0.23	81	3.68	243	11.05	83	3.77	2	0.09	-	-	15	0.68	
山梨県	1470	36.75	7	3	0.13	20	0.83	192	8.00	19	0.79	1	0.04	-	-	7	0.29	
長野県	3229	37.11	58	3	0.06	81	1.50	433	8.02	59	1.09	8	0.15	7	0.13	21	0.39	
岐阜県	2541	29.21	38	18	0.34	50	0.94	289	5.45	47	0.89	-	-	1	0.02	19	0.36	
静岡県	4879	35.10	75	15	0.17	118	1.33	810	9.10	101	1.13	9	0.10	1	0.01	44	0.49	
愛知県	9097	46.65	86	45	0.25	184	1.02	1543	8.52	191	1.06	9	0.05	4	0.02	83	0.46	
三重県	1799	24.99	41	11	0.24	72	1.60	398	8.84	59	1.31	6	0.13	1	0.02	23	0.51	
滋賀県	1326	25.02	33	5	0.16	35	1.09	203	6.34	44	1.38	7	0.22	-	-	18	0.56	
京都府	2850	23.55	13	6	0.08	121	1.66	508	6.96	108	1.48	-	-	-	-	15	0.21	
大阪府	7060	22.85	205	44	0.22	429	2.15	1400	7.00	225	1.13	31	0.16	8	0.04	75	0.38	
兵庫県	5844	29.37	89	61	0.47	158	1.22	1087	8.43	174	1.35	1	0.01	6	0.05	46	0.36	
奈良県	1264	22.98	17	4	0.11	25	0.71	184	5.26	29	0.83	1	0.03	1	0.03	8	0.23	
和歌山県	1024	20.48	33	3	0.10	35	1.13	158	5.10	20	0.65	1	0.03	-	-	17	0.55	
鳥取県	1003	34.59	10	-	-	80	4.21	170	8.95	27	1.42	12	0.63	2	0.11	10	0.53	
島根県	858	22.58	23	-	-	32	1.39	246	10.70	42	1.83	3	0.13	-	-	13	0.57	
岡山県	2345	27.92	26	8	0.15	59	1.09	436	8.07	41	0.76	6	0.11	-	-	22	0.41	
広島県	4112	35.76	52	29	0.40	105	1.46	769	10.68	97	1.35	7	0.10	7	0.10	35	0.49	
山口県	2165	31.38	71	16	0.33	188	3.92	445	9.27	116	2.42	6	0.13	1	0.02	30	0.63	
徳島県	866	22.79	50	3	0.13	35	1.52	189	8.22	28	1.22	-	-	2	0.09	10	0.43	
香川県	1561	31.86	12	7	0.23	22	0.73	256	8.53	53	1.77	3	0.10	3	0.10	14	0.47	
愛媛県	2468	40.46	44	2	0.05	105	2.84	406	10.97	69	1.86	6	0.16	6	0.16	23	0.62	
高知県	986	20.54	62	1	0.03	21	0.70	379	12.63	51	1.70	4	0.13	3	0.10	16	0.53	
福岡県	9010	45.74	70	67	0.56	280	2.33	1028	8.57	295	2.46	113	0.94	1	0.01	77	0.64	
佐賀県	1378	36.26	12	18	0.82	33	1.50	115	5.23	50	2.27	6	0.27	-	-	16	0.73	
長崎県	3564	50.91	23	5	0.11	56	1.27	420	9.55	79	1.80	1	0.02	-	-	16	0.36	
熊本県	1792	22.40	33	33	0.66	100	2.00	716	14.32	87	1.74	45	0.90	-	-	40	0.80	
大分県	2239	38.60	31	18	0.50	60	1.67	430	11.94	55	1.53	18	0.50	-	-	26	0.72	
宮崎県	2260	38.31	40	47	1.31	77	2.14	509	14.14	104	2.89	5	0.14	7	0.19	37	1.03	
鹿児島県	3116	33.51	24	29	0.53	101	1.84	673	12.24	188	3.42	17	0.31	1	0.02	30	0.55	
沖縄県	1560	26.90	9	7	0.21	41	1.21	89	2.62	89	2.62	6	0.18	-	-	11	0.32	

*髄膜炎菌性髄膜炎は除く。

報告数・定点当り報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	百日咳		ヘルパンギーナ		流行性耳下腺炎		急性出血性結膜炎		流行性角結膜炎		細菌性髄膜炎*		無菌性髄膜炎		マイコプラズマ肺炎		クラミジア肺炎	
	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り	報告数	定点当り
総数	30	0.01	60	0.02	617	0.20	17	0.02	338	0.49	4	0.01	10	0.02	292	0.63	18	0.04
北海道	4	0.03	-	-	13	0.09	-	-	16	0.55	-	-	-	-	13	0.57	-	-
青森県	-	-	-	-	8	0.20	-	-	1	0.09	-	-	-	-	9	1.50	-	-
岩手県	-	-	-	-	25	0.63	-	-	7	0.50	-	-	-	-	22	1.16	-	-
宮城県	-	-	-	-	21	0.36	-	-	1	0.08	-	-	-	-	33	2.75	1	0.08
秋田県	-	-	-	-	9	0.26	-	-	1	0.14	-	-	-	-	7	0.88	-	-
山形県	-	-	-	-	27	0.90	-	-	1	0.13	-	-	-	-	4	0.40	-	-
福島県	-	-	-	-	18	0.40	-	-	8	0.67	-	-	-	-	7	1.00	1	0.14
茨城県	-	-	1	0.01	5	0.07	-	-	22	1.29	-	-	-	-	7	0.54	-	-
栃木県	1	0.02	-	-	7	0.15	-	-	6	0.50	-	-	-	-	7	1.00	1	0.14
群馬県	-	-	-	-	9	0.15	-	-	12	0.86	-	-	-	-	8	1.00	-	-
埼玉県	1	0.01	2	0.01	18	0.11	6	0.14	9	0.21	-	-	-	-	13	1.44	3	0.33
千葉県	4	0.03	1	0.01	21	0.16	1	0.03	26	0.76	-	-	1	0.11	4	0.44	3	0.33
東京都	1	0.00	1	0.00	34	0.13	1	0.03	14	0.38	2	0.08	4	0.17	12	0.50	-	-
神奈川県	3	0.01	-	-	32	0.16	-	-	31	0.70	-	-	-	-	5	0.50	-	-
新潟県	-	-	1	0.02	9	0.15	-	-	5	0.50	-	-	-	-	4	0.31	3	0.23
富山県	-	-	3	0.10	3	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	6	1.20	-	-
石川県	-	-	1	0.03	3	0.10	-	-	1	0.14	-	-	-	-	4	0.80	-	-
福井県	-	-	-	-	14	0.64	-	-	-	-	-	-	-	-	1	0.17	-	-
山梨県	-	-	-	-	1	0.04	-	-	7	0.78	-	-	-	-	-	-	1	0.10
長野県	-	-	-	-	3	0.06	-	-	6	0.55	-	-	-	-	6	0.55	-	-
岐阜県	-	-	-	-	15	0.28	-	-	3	0.27	-	-	-	-	9	1.80	-	-
静岡県	2	0.02	2	0.02	19	0.21	-	-	11	0.50	-	-	-	-	13	1.30	1	0.10
愛知県	2	0.01	-	-	55	0.30	1	0.03	17	0.50	1	0.07	-	-	9	0.64	-	-
三重県	-	-	-	-	19	0.42	-	-	2	0.17	-	-	-	-	7	0.78	-	-
滋賀県	1	0.03	-	-	4	0.13	-	-	3	0.38	-	-	-	-	2	0.29	-	-
京都府	-	-	2	0.03	7	0.10	-	-	5	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	1	0.01	3	0.02	24	0.12	-	-	16	0.31	-	-	-	-	9	0.53	1	0.06
兵庫県	2	0.02	2	0.02	14	0.11	1	0.03	11	0.31	-	-	-	-	8	0.73	2	0.18
奈良県	-	-	-	-	3	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	1	0.03	-	-	5	0.16	-	-	1	0.25	-	-	-	-	8	0.73	-	-
鳥取県	-	-	-	-	3	0.16	-	-	-	-	-	-	1	0.20	2	0.40	-	-
島根県	-	-	1	0.04	3	0.13	-	-	-	-	-	-	1	0.13	1	0.13	-	-
岡山県	1	0.02	3	0.06	18	0.33	-	-	2	0.17	-	-	-	-	1	0.20	-	-
広島県	-	-	1	0.01	8	0.11	1	0.05	7	0.37	-	-	-	-	1	0.05	-	-
山口県	-	-	4	0.08	3	0.06	-	-	2	0.22	-	-	-	-	2	0.22	-	-
徳島県	-	-	-	-	4	0.17	-	-	1	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	2	0.07	10	0.33	-	-	2	0.67	1	0.20	-	-	1	0.20	-	-
愛媛県	-	-	2	0.05	7	0.19	-	-	9	1.13	-	-	1	0.17	6	1.00	-	-
高知県	1	0.03	-	-	2	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	5	0.63	-	-
福岡県	5	0.04	13	0.11	36	0.30	-	-	13	0.50	-	-	-	-	2	0.14	-	-
佐賀県	-	-	2	0.09	2	0.09	-	-	1	0.25	-	-	-	-	5	0.83	-	-
長崎県	-	-	5	0.11	11	0.25	6	0.75	1	0.13	-	-	1	0.08	4	0.33	1	0.08
熊本県	-	-	2	0.04	9	0.18	-	-	10	1.11	-	-	-	-	1	0.07	-	-
大分県	-	-	2	0.06	21	0.58	-	-	1	0.20	-	-	-	-	7	0.64	-	-
宮崎県	-	-	-	-	16	0.44	-	-	20	3.33	-	-	-	-	2	0.29	-	-
鹿児島県	-	-	2	0.04	10	0.18	-	-	15	2.14	-	-	-	-	4	0.33	-	-
沖縄県	-	-	2	0.06	9	0.26	-	-	11	1.10	-	-	1	0.14	11	1.57	-	-

報告数・疾病・都道府県別
 2013年4週

	インフルエンザ (入院患者)
	報告数
総 数	1,318
北海道	75
青森県	26
岩手県	42
宮城県	23
秋田県	34
山形県	65
福島県	28
茨城県	53
栃木県	26
群馬県	45
埼玉県	35
千葉県	38
東京都	101
神奈川県	35
新潟県	40
富山県	25
石川県	9
福井県	15
山梨県	5
長野県	42
岐阜県	13
静岡県	22
愛知県	94
三重県	5
滋賀県	18
京都府	3
大阪府	61
兵庫県	18
奈良県	6
和歌山県	16
鳥取県	11
島根県	12
岡山県	12
広島県	39
山口県	17
徳島県	11
香川県	3
愛媛県	11
高知県	13
福岡県	21
佐賀県	38
長崎県	6
熊本県	43
大分県	23
宮崎県	13
鹿児島県	12
沖縄県	15

獣医師が届出を行う感染症と対象動物

注 報告数は感染実験等の学術的研究による発生を除く。

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別

2013年4週

	エボラ出血熱		マールブルグ病		ペスト		重症急性呼吸器症候群(SARS)						結核		鳥インフルエンザ(H5N1)		細菌性赤痢	
	サル		サル		プレーリードッグ	イタチアナグマ		タヌキ		ハクビシン		サル		鳥類		サル		
	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積	報告数	累積
総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告数・累積報告数, 疾病・都道府県別 2013年4週

	ウエストナイル熱		エキノコックス症	
	鳥類		犬	
	報告数	累積	報告数	累積
総 数	-	-	-	-
北海道	-	-	-	-
青森県	-	-	-	-
岩手県	-	-	-	-
宮城県	-	-	-	-
秋田県	-	-	-	-
山形県	-	-	-	-
福島県	-	-	-	-
茨城県	-	-	-	-
栃木県	-	-	-	-
群馬県	-	-	-	-
埼玉県	-	-	-	-
千葉県	-	-	-	-
東京都	-	-	-	-
神奈川県	-	-	-	-
新潟県	-	-	-	-
富山県	-	-	-	-
石川県	-	-	-	-
福井県	-	-	-	-
山梨県	-	-	-	-
長野県	-	-	-	-
岐阜県	-	-	-	-
静岡県	-	-	-	-
愛知県	-	-	-	-
三重県	-	-	-	-
滋賀県	-	-	-	-
京都府	-	-	-	-
大阪府	-	-	-	-
兵庫県	-	-	-	-
奈良県	-	-	-	-
和歌山県	-	-	-	-
鳥取県	-	-	-	-
島根県	-	-	-	-
岡山県	-	-	-	-
広島県	-	-	-	-
山口県	-	-	-	-
徳島県	-	-	-	-
香川県	-	-	-	-
愛媛県	-	-	-	-
高知県	-	-	-	-
福岡県	-	-	-	-
佐賀県	-	-	-	-
長崎県	-	-	-	-
熊本県	-	-	-	-
大分県	-	-	-	-
宮崎県	-	-	-	-
鹿児島県	-	-	-	-
沖縄県	-	-	-	-

感染症週報 第15巻 第4号 2013年2月8日発行
 発行：国立感染症研究所

厚生労働省健康局結核感染症課
 厚生労働省大臣官房統計情報部

事務局：国立感染症研究所感染症情報センター

〒162-8640東京都新宿区戸山1-23-1

T E L : 03-5285-1111

F A X : 03-5285-1129

U R L : <http://www.nih.go.jp/niid/ja/from-idsc.html>

< 国立感染症研究所 感染症情報センター >

<http://www.mhlw.go.jp/>

< 厚生労働省 >

<http://www.forth.go.jp/>

< 旅行者のための海外感染症情報(厚生労働省検疫所) >

本週報は、感染症新法に基づくものであり、全国の医療従事者、定点医療機関、保健所、保健所設置市、特別区、都道府県、地方衛生研究所、検疫所の皆様のご協力を得て、国立感染症研究所感染症情報センターにおいて編集したものです。

また、本週報は速報性を重視しておりますので、今後調査などの結果に応じて、若干の変更が生じることがありますが、その場合には週報上にて訂正させていただきます。

「感染症の話」及び「読者のコーナー」の回答欄の内容に関する責は、それぞれの執筆者及び回答者に属しますが、内容に関するご質問、ご意見については事務局でお受けいたします。

なお、週報の内容について、学術的研究、あるいは公衆衛生活動にかかわる業務以外の目的においては、無断転載を禁じます。